

岩手医科大学附属病院 専門研修 プログラム概要 2026年度版



Iwate Medical University Hospital



岩手医科大学附属病院 専門研修プログラム概要

目次

• 新しい専門医制度について	1
• 岩手医科大学附属病院の概要	3
• 当院の専門研修プログラムの特長	7
• 専門研修プログラム一覧	8

• 内科	9
• 外科	11
• 脳神経外科	13
• 整形外科	15
• 形成外科	17
• 産婦人科	19
• 小児科	21
• 耳鼻咽喉科	23
• 眼科	25
• 皮膚科	27
• 泌尿器科	29
• 放射線科	31
• 精神科	33
• 麻酔科	35
• 救急科	37
• 臨床検査科	39
• 病理診断科	41
• リハビリテーション科	43
• 総合診療	45

• 募集及び処遇等について	47
• アクセス	48

【新しい専門医制度について】

【新しい専門医制度の概要】

2018年4月から開始された新しい専門医制度は、それまで学会が独自に定めていた専門医の認定基準を統一することにより、すべての専門研修が一定水準にあることを保証し、制度の信頼性を担保することを目的として制度化されたものです。

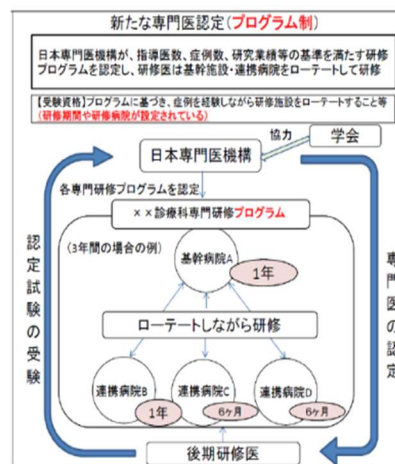
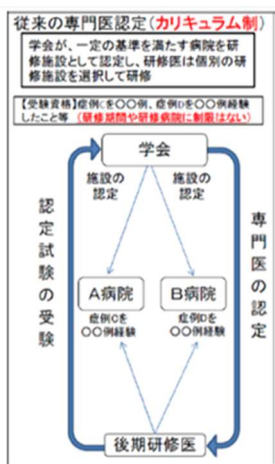
同制度では、専門医を「それぞれの診療領域における適切な教育を受けて十分な知識・経験を持ち、患者から信頼される標準的な医療を提供できる医師」と定義しており、中立的な第三者機関「一般社団法人 日本専門医機構」による統一的な専門医の認定や専門医養成プログラムの評価・認定等を行うこととしております。

【旧制度】

研修システム	カリキュラム制
所掌	各基本領域学会
専門医資格認定	各領域学会が定めた到達目標を達成 専門医認定試験受験資格を獲得 ⇒専門医認定試験に合格
研修施設	各領域学会が定めた全国の認定施設 (1か所でも何か所でも研修可)
研修年限	特に定めはない

【新制度（2018年4月～）】

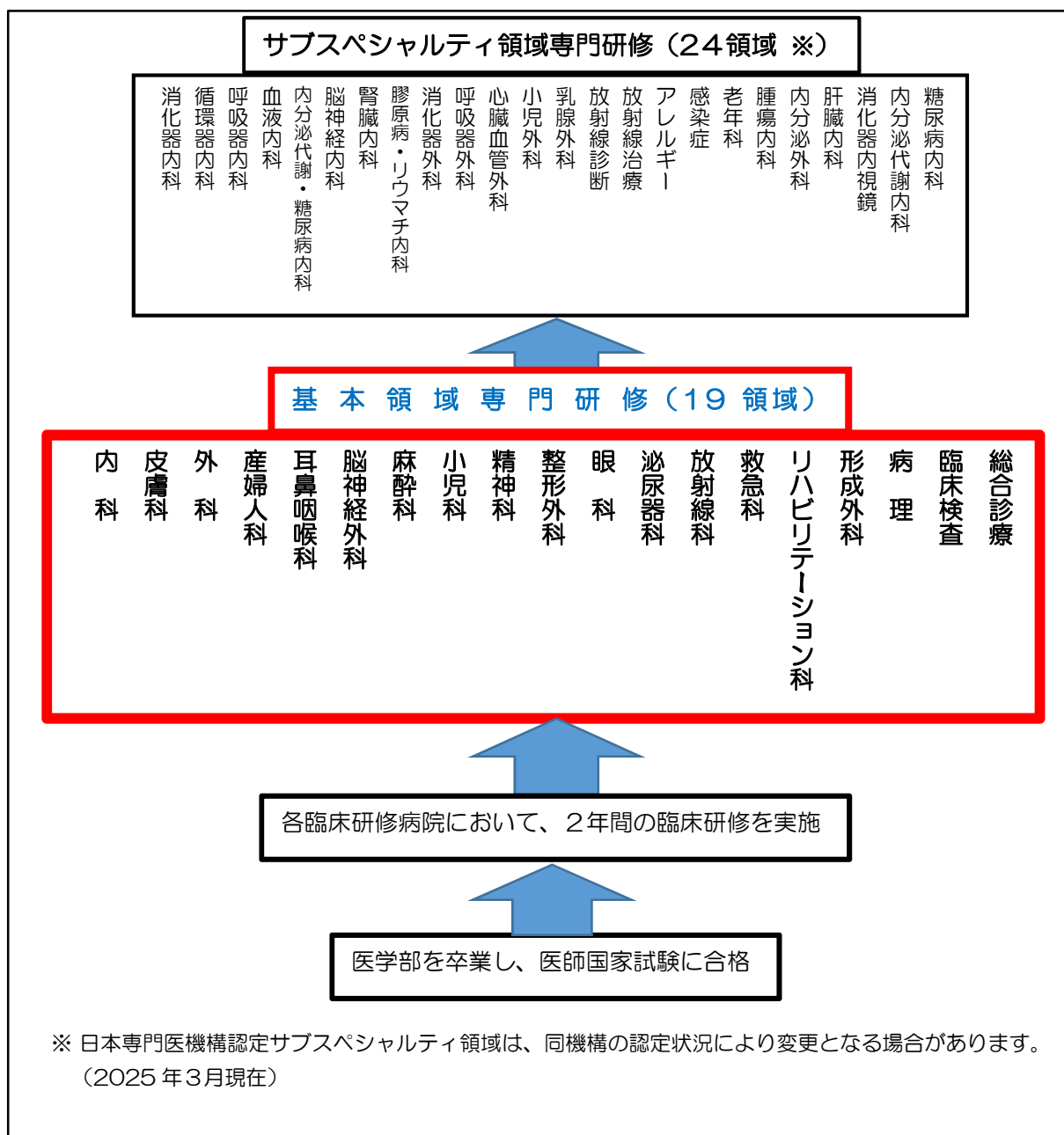
研修システム	原則プログラム制
所掌	一般社団法人 日本専門医機構
専門医資格認定	年次毎に定められた 一定のプログラム (基幹施設毎にプログラムを登録) に 則って修練し、修了 ⇒専門医認定試験に合格
研修施設	研修プログラムごとに構成された基幹施設 および連携施設群をローテート
研修年限	各研修プログラムで定められた 研修期間 (3～5年)



【新専門医制度における研修について】

新しい専門医制度は、原則、医師国家試験合格後の臨床研修（２年間）を修了した後、希望する基本領域で３年以上の専門研修を行います。研修は病院単独ではなく、各専門研修プログラムに定められた基幹施設（大学病院等）と連携施設（診療所を含む地域の協力病院等）において研修を実施します。

サブスペシャリティ領域の専門医取得を目指す場合、関係する基本領域の専門医を取得する必要があります。



※ 日本専門医機構認定サブスペシャリティ領域は、同機構の認定状況により変更となる場合があります。
(2025 年 3 月現在)

当院では、19 の基本領域すべての専門研修プログラムを用意しております。

【岩手医科大学附属病院について】

岩手医科大学は、創始者三田俊次郎先生が岩手県の地域医療を担うべく、明治30年に私財を投じて設立した私立岩手病院に併設された医学講習所を起源としております。その後、昭和3年2月に創立した財団法人岩手医学専門学校を附属病院の前身とし、同年7月に本館（現在の2号館）が完成、一貫して医療人の育成を続けてきました。岩手医学専門学校は、昭和22年6月18日に医科大学に昇格し、昭和27年4月には新制度による岩手医科大学となり、今日に及んでおります。

その間、附属病院は昭和13年9月に分院を市内三戸町（現在の本町キャンパス）に開設し、戦後は医学医療の進歩発展とともに整備拡充され、昭和33年9月に6号館（現在の西病棟）、昭和45年8月には10号館（現在の医学部外来棟及び中病棟）を増築し本院地区の充実が図られました。これにより、分院は昭和46年10月に廃止されました。

一方、歯学部付属病院は昭和42年4月に開設され、地域歯科医療の代表的存在として多大な貢献をしております。さらに、厚生省と岩手県より、救急医療体制の整備のため協力要請のあった岩手県高次救急センターと、本学の外科系病棟及び手術部を附設した東病棟が昭和55年10月に完成し、近代医学の最高の整備・機能を充実したスタッフを備えるに至りました。平成5年7月には附属花巻温泉病院を開設、平成6年2月には特定機能病院の承認を得て、平成7年9月には歯学部附属病院に障がい者歯科診療センターを開設。平成9年5月には最新鋭の医療機器・設備を備えた循環器医療センターが開設され、北日本における循環医療の中核として、医療機関としての使命に加えて医育研究機関として社会的使命を果たしております。平成13年12月には岩手県高次救急センターの運営主体の本学への移管に伴い「岩手県高度救命救急センター」に名称変更し、名実ともに地域医療を担う中核医療機関として発展を続けております。

近年では、平成24年5月より矢巾キャンパス附属病院転用地に基地ヘリポート・格納庫を設置し、ドクターヘリの本格稼働が始まりました。医療資源が限られる岩手県において、救急措置を施しながら迅速な広域搬送が可能となり、救命率の向上と後遺症の軽減に絶大な効果を発揮しております。

令和元年9月に、矢巾キャンパスに新附属病院として移転し、令和8年4月1日には、附属病院と内丸メディカルセンターの移転統合を控えており、今後も県内唯一の特定機能病院として、より質の高い医療の提供、地域の医療機関との連携をさらに強化し、地域医療の維持、発展に努めます。



【法令等に基づく医療機関の指定状況】

- ・ 特定機能病院
- ・ 特定承認療養取扱機関
- ・ 労災保険指定医療機関
- ・ 生活保護指定医療機関
- ・ 指定自立支援医療機関（育成医療・更生医療）
- ・ 指定自立支援医療機関（精神通院医療）
- ・ 岩手県認知症疾患医療センター
- ・ 総合周産期母子医療センター
- ・ 戦傷病者特別援護法指定医療機関
- ・ 原子爆弾被爆者医療指定病院
- ・ 養育医療指定病院
- ・ 病院群輪番制参加病院
- ・ 臨床研修指定病院
- ・ 臨床修練指定病院（外国医師、外国歯科医師）
- ・ 災害拠点病院
- ・ エイズ治療中核拠点病院
- ・ 都道府県がん診療連携拠点病院
- ・ 診療報酬の算定方法に基づく施設基準の届出
- ・ 肝疾患診療拠点病院
- ・ 難病診療連携拠点病院
- ・ 救急告示病院 他

【標榜診療科】

内科、消化器内科、肝臓内科、糖尿病・代謝内科、循環器内科、内分泌内科、腎臓内科、呼吸器内科、心療内科、アレルギー科、血液・腫瘍内科、神経内科、老年内科、外科、消化器外科、肝臓外科、乳腺外科、小児外科、気管食道外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、整形外科、リハビリテーション科、リウマチ科、形成外科、頭頸部外科、美容外科、産婦人科、小児科、耳鼻咽喉科、眼科、皮膚科、泌尿器科、放射線診断科、放射線治療科、麻酔科、精神科、児童精神科、救急科、臨床検査科、病理診断科、緩和ケア内科、歯科、矯正歯科、小児歯科、歯科口腔外科



【診療科別入院・外来患者延べ数】（附属病院分、2024 年度実績）

診療科	入院患者数（人）		外来患者数（人）	
	累計	1 日平均	累計	1 日平均
消化器内科	20,787	57.0	14,909	56.3
糖尿病・代謝・内分泌内科	2,887	7.9	4,793	18.1
腎・高血圧内科	4,486	12.3	858	3.2
呼吸器内科	13,512	37.0	7,899	29.8
リウマチ・膠原病・アレルギー内科	3,135	8.6	354	1.3
血液腫瘍内科	7,224	19.8	8,677	32.7
脳神経内科・老年科	11,550	31.6	693	2.6
外科	32,641	89.4	23,339	88.1
脳神経外科	12,976	35.6	1,356	5.1
呼吸器外科	4,258	11.7	2,770	10.5
整形外科	18,507	50.7	1,225	4.6
形成外科	5,306	14.5	7,907	29.8
産婦人科	18,812	51.5	14,961	56.5
小児科	19,759	54.1	14,112	53.3
耳鼻咽喉科	2,329	6.4	2,617	9.9
頭頸部外科	12,585	34.5	5,700	21.5
眼科	4,412	12.1	769	2.9
皮膚科	5,952	16.3	2,118	8.0
泌尿器科	8,133	22.3	6,461	24.4
放射線診断科・治療科	354	1.0	7,167	27.0
精神神経科	10,651	29.2	17,959	67.8
麻酔科	434	1.2	6,093	23.0
臨床検査科	-	-	4	0.0
緩和ケア科	7,265	19.9	182	0.7
睡眠医療科	-	-	22	0.1
臨床遺伝科	-	-	43	0.2
救急科	15,780	43.2	2,093	7.9
循環器内科	14,663	40.2	8,367	31.6
心臓血管外科	7,169	19.6	498	1.9

※ 上記のほか、外来診療に特化した内丸メディカルセンターでの診療もございます。

【専門医・認定医等学会認定施設一覧】

当院は専門教育のための施設として、以下の学会認定を受けております（2025 年 4 月 1 日現在）

日本内科学会認定教育施設	日本脈管学会認定研修施設
日本血液学会研修施設	日本心臓血管外科学会専門医認定機構基幹施設
日本臨床細胞学会認定施設	腹部ステントグラフト実施施設
日本臨床腫瘍学会認定研究施設（基幹施設）	ステントグラフト実施施設
日本輸血・細胞治療学会認定医制度指定施設	基幹施設認定（三学会構成心臓血管外科専門医認定機構）
日本腎臓学会研修施設	日本成人先天性心疾患学会総合修練施設
日本透析医学会認定施設	日本脳卒中学会認定研修教育施設
日本高血圧学会専門医認定施設	日本脳神経外科学会専門医訓練施設
日本心血管インターベンション治療学会研修施設認定	日本頭痛学会認定教育施設
ASD 閉鎖性施行施設認定	日本神経学会教育施設
経皮的像帽弁接合不全修復システム実施施設	日本認知症学会認定施設
左心耳閉鎖性システム実施施設	日本神経生理学会認定施設
日本循環器学会循環器専門医研修施設	日本消化器病学会認定施設
植え込み型除細動器／ペースメーカーによる心不全治療研修施設	日本消化器内視鏡学会指導施設
PDA 閉鎖性施行施設認定	日本呼吸器学会認定施設
経カテーテルの大動脈弁置換術（TAVR）指導施設	日本呼吸器内視鏡学会認定施設
日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設	日本アレルギー学会認定教育施設
IMPELLA 補助循環用ポンプカテーテル実施施設	日本糖尿病学会認定教育施設
潜性脳梗塞に対する卵円孔閉塞閉鎖術実施施設	日本内分泌学会認定教育施設
日本リハビリテーション医学会認定施設	日本肝臓学会専門医認定施設
日本心臓リハビリテーション学会心臓リハビリテーション研修施設認定	日本大腸肛門病学会認定施設
心臓リハビリテーション指導士認定研修施設	日本消化器外科学会専門医修練施設
日本老年精神医学会認定施設	日本呼吸器外科学会専門医制度認定施設
日本精神神経学会精神科専門医制度研修施設	日本肥満学会認定肥満症専門施設
日本精神科救急学会暫定認定施設	日本小児循環器学会小児循環器専門医修練施設認定
日本食道学会食道外科専門医認定施設	日本定位・機能神経外科学会認定施設
日本整形外科学会教育施設	日本リハビリテーション医学会研修施設
日本脊椎脊髄病学会脊椎脊髄外科専門医基幹研修施設	日本形成外科学会認定施設
日本脊椎脊髄病学会研修施設	日本外科学会外科専門医制度修練施設
日本乳癌学会関連施設	日本肝胆膵外科学会高度技能医修練施設
日本婦人科腫瘍学会婦人科腫瘍専門医指定修練施設	日本周産期・新生児医学会新生児研修基幹施設
日本小児神経学会小児神経専門医研修認定施設	日本産科婦人科学会卒後研修指導施設
日本小児血液・がん学会日本小児血液・がん専門医研修施設	臨床遺伝専門医制度認定研修施設
日本東洋医学会指定研修施設	日本小児科学会小児科専門医研修施設
日本手外科学会基幹研修施設	日本てんかん学会てんかん専門医認定施設
頭頸部がん専門医認定研修施設	日本急性血液浄化学会認定指定施設
日本小児外科学会専門医制度認定施設	日本耳鼻咽喉科学会専門医研修施設
日本眼科学会専門医研修施設	日本気管食道科学会認定気管食道科専門医研修施設（咽喉系）
日本皮膚科学会専門医研修施設	日本泌尿器科学会専門医教育施設
日本リウマチ学会教育施設	日本静脈経腸栄養学会・NST 稼働施設
日本心身医学会研修診療施設	日本静脈経腸栄養学会認定教育施設
日本麻酔科学会麻酔指導病院	日本ペインクリニック学会認定医研修施設
救急科専門医指定施設	日本救急医学会指導医指定施設
日本核医学会専門医教育病院	日本医学放射線学会放射線科専門医総合修練機関
日本超音波医学会専門医研修施設	日本医学放射線学会・日本放射線腫瘍学会認定放射線治療施設
日本臨床検査医学会認定研修施設	日本インターベンショナルラジオロジー学会専門医修練施設
高速回転式経皮経管アテレクトミーカテーテル実施認定施設	日本病理学会病理専門医制度研修施設
日本病院総合診療医学会認定施設	日本がん治療認定医機構がん治療認定医認定研修施設
専門医機構総合診療専門医基幹施設	日本動脈硬化学会専門医認定教育施設
日本プライマリ・ケア連合学会新家庭医療専門医基幹施設	日本女性医学会専門医研修施設
日本外科感染症学会周術期感染管理教育施設	日本感染症学会連携研修施設
日本感染症学会認定研修施設	日本緩和医療学会認定研修施設
日本消化管学会胃腸科指導施設	日本睡眠学会専門医療機関A認定施設
日本臨床神経生理学会	日本呼吸療法医学会専門医研修施設
日本睡眠学会	小児心臓血管外科医生涯育成プログラム参加施設
臨床精神神経薬理学研修施設認定	ロボット支援下心臓手術認定施設
日本総合病院精神医学会 一般病院連携精神医学専門医研修認定	日本脳神経血管内治療学会研修施設
日本総合病院精神医学会 電気けいれん療法研修施設	日本専門医機構認定脊椎脊髄外科専門医研修施設

【当院での専門研修プログラムの特長】

岩手医科大学附属病院（以下、当院）は、2019年9月に矢巾キャンパスに移転しました。特定機能病院として高度な医療を訓練しつつ、以下の特長を持った実践的な医療を経験できます。

- 当院では、日本専門医機構が定める19の基本領域すべての専門研修プログラムを用意しており、県内外の連携施設等において、地域医療を経験しながら、専門医の取得を目指すことができます。
- 各専門診療科のバックアップ体制のもと、数多くの症例を深く広く思考する科学的姿勢を身に付けることができます。
- 基本領域専門医取得後の「サブスペシャリティ」領域の研修にも対応。臨床研修から専門研修、その後のキャリア形成を見据えた研修を行うことが可能です。
- 診療能力向上のため、各領域では各種研修会やカンファレンス等が開催されており、知識の整理と充実を図ることが出来ます。また、診療科を横断して対処が必要な症例や、難易度が高く専門性が求められる疾患を経験することが出来ます。
- 当院には臨床経験と指導方法を十分に有する指導医が多数おり、情熱を持って指導にあたっています。
- 院内の高度救命救急センターでは、三次救急の現場で、あらゆる疾患を集中して経験することが出来ます。
- 外来診療に特化した「岩手医科大学附属内丸メディカルセンター」と連携しながら、研修を行います。
- 大学敷地内に、臨床研修医や専攻医等に対応した宿舎「レジデントハイム」が完成しました。2021年3月から入居を開始しております。



臨床研修医等宿舎「レジデントハイム」



ドクターヘリ及び救急入口（附属病院西側）

【岩手医科大学附属病院 専門研修プログラム一覧】

領域名	プログラム名	当院関係診療科
内科	岩手医科大学内科専門研修プログラム	消化器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、腎・高血圧内科、循環器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病・アレルギー内科、血液腫瘍内科、脳神経内科・老年科、病理診断科、救急科、総合診療科
外科	岩手医科大学外科専門研修プログラム	外科、心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科、救急科
脳神経外科	岩手医科大学脳神経外科専門研修プログラム	脳神経外科
整形外科	岩手医科大学整形外科専門研修プログラム	整形外科
形成外科	岩手医科大学形成外科専門研修プログラム	形成外科
産婦人科	岩手医科大学産婦人科研修プログラム	産婦人科
小児科	岩手医科大学附属病院小児科専攻医プログラム	小児科、児童精神科
耳鼻咽喉科	岩手医科大学附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム	耳鼻咽喉科・頭頸部外科
眼科	岩手眼科専門研修プログラム	眼科
皮膚科	岩手医科大学医学部皮膚科研修プログラム	皮膚科
泌尿器科	岩手医科大学泌尿器科専門研修プログラム	泌尿器科
放射線科	岩手医科大学連携病院群放射線科専門研修プログラム	放射線科
精神科	岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム	精神神経科、児童精神科
麻酔科	岩手医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラム	麻酔科
救急科	岩手医科大学附属病院救急科専門研修プログラム	救急科
臨床検査	岩手医科大学臨床検査専門研修プログラム	臨床検査科
病理	イーハトーヴ病理専門研修プログラム（岩手）	病理診断科
リハビリテーション科	岩手県リハビリテーション科専門研修プログラム	リハビリテーション科
総合診療	いわてイーハトーヴ総合診療専門研修プログラム	総合診療科、内科、小児科、救急科等

※ 次のページから掲載している「各領域の専門研修プログラムの概要（2026年度版）」は、各領域学会の審査を通過または審査中のものであり、今後、日本専門医機構による審査の結果、修正・変更となる場合があります（詳細は各科へお問合せください）。

※ 専門研修プログラムは、各領域学会のホームページや岩手医科大学 医師卒後臨床研修センターのホームページ（<http://www.hosp.iwate-med.ac.jp/resident>）にも掲載しております。

【内 科】

1. プログラム名：岩手医科大学内科専門研修プログラム
(定員 28 名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：伊藤 薫樹
(内科学講座血液腫瘍内科分野 教授)

3. 研修年限：3 年間

4. 当院指導医数 74 名



5. 連携施設 (42 施設)

(連携施設) 23 施設

盛岡赤十字病院、岩手県立中部病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立磐井病院、
岩手県立久慈病院、岩手県立宮古病院、岩手県立釜石病院、岩手県立大船渡病院、
岩手県立二戸病院、岩手県立軽米病院、岩手県立山田病院、盛岡市立病院、松園第二病院、
いわてリハビリテーションセンター、国立病院機構岩手病院、国立病院機構盛岡医療センタ
ー、八戸赤十字病院、能代厚生医療センター、かづの厚生病院、JR 仙台病院、岩手県立江刺病
院、岩手県立中央病院、和歌山県立医科大学附属病院

(特別連携施設) 19 施設

北上済生会病院、岩手県立一戸病院、岩手県立千厩病院、岩手県立遠野病院、岩手県立高田病
院、岩手県立大東病院、済生会岩泉病院、八角病院、盛岡友愛病院、奥州市総合水沢病院、
国保葛巻病院、町立西和賀さわうち病院、国保藤沢病院、国保二又診療所、国保山形診療所、
国保浄法寺診療所、中津川病院、市立角館総合病院、岩手医科大学附属内丸メディカルセンター

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学内科専門医研修プログラム（以下、本プログラム）では、特定機能病院としての
高度な医療を研修しつつ、東日本大震災の被災地である沿岸地域の実情に合わせた実践的な医療
や、診療所との病院連携などを通じて、内科専門医の取得を目指すプログラムです。

本プログラムでは、「内科総合コース」「地域医療重点コース」の2種類の研修コースを用意
しており、24 の連携施設と 18 の特別連携施設で構成されています。

「内科総合コース」では、内科の領域を横断的に学ぶことを目的としたコースであり、基幹施
設での研修を1年以上、連携施設・特別連携施設での研修を1年以上（2年未満）行い、内科専
門医に必要な能力を養います。

「地域医療重点コース」では、地域卒卒業者や奨学金受給者を対象としたコースであり、1年
次は基幹施設で内科、救急科及び総合診療科で研修を行い、その後連携施設・特別連携施設で、
1施設あたり3か月以上の研修を2年間行います。

当院の内科は大講座制のために、各診療科の垣根が低いのが特徴です。そのため、専攻医は例
えば循環器、血液、膠原病の患者を同時に担当することができます。また1つのローテーション期
間が5か月間と長期間であるために、入院時に担当した患者が退院し、さらに外来でのフォローア
ップまで、ひとりの患者を長期間にわたり診療することが可能です。

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

・内科総合コース

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	ローテーション	内科Ⅰ（又は内科Ⅱ）					総合診療	救急	内科Ⅱ（又は内科Ⅰ）				
		月1回～2回のプライマリケア当直（大学で研修の場合は内科の一次二次救急当直）を行う											
	目標	基幹施設での研修 1年目にJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約を10編以上登録											
2年次	ローテーション	内科Ⅰ（又は内科Ⅱ）					内科Ⅱ（又は内科Ⅰ）						
	目標	基幹施設での研修 45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
3年次	ローテーション	選択内科（Subspecialty）や必要な疾患群を経験するための研修											
	目標	連携施設での研修 70疾患群を経験し200例以上を登録 2年次までに登録された病歴要約の改訂 内科専門医取得のための筆記試験											

・地域医療重点コース

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年次	ローテーション	内科Ⅰ（又は内科Ⅱ）					総合診療	救急	内科Ⅱ（又は内科Ⅰ）				
		月1回～2回のプライマリケア当直（大学で研修の場合は内科の一次二次救急当直）を行う											
	目標	1年目にJMECCを受講 20疾患群以上を経験し登録 病歴要約を10編以上登録											
2年次	ローテーション	選択内科(Subspecialty)や必要な疾患群を経験するための研修											
		地域医療研修(連携施設での研修)											
	目標	45疾患群以上を経験し登録 必要な29症例の病歴要約を全て登録											
3年次	ローテーション	選択内科(Subspecialty)や必要な疾患群を経験するための研修											
		地域医療研修(連携施設での研修)											
	目標	70疾患群を経験し200例以上を登録 2年次までに登録された病歴要約の改訂 内科専門医取得のための筆記試験											

8. 研修内容・方法

上表のいずれのコースにおいても、内科Ⅰ（消化器内科、糖尿病・代謝・内分泌内科、脳神経内科・老年科）を5か月間、内科Ⅱ（腎・高血圧内科、循環器内科、呼吸器内科、リウマチ・膠原病・アレルギー内科、血液腫瘍内科）を5か月間、さらに救急科や総合診療科をローテーションします。

連携施設、特別連携施設での研修は、内科総合コースでは1年以上2年未満、地域診療重点コースでは2・3年次に行い、必要な疾患群を経験できるように実施します。

研修プログラム修了要件として、上記の研修のほかに、CPCの受講、内科系学術集会や企画に年2回以上の参加、筆頭者での学会発表あるいは論文発表を2件以上行い、臨床現場を離れた学習も同時に進めます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性・連動研修

内科総合コース・地域医療重点コースともに、3年間の研修中にサブスペシャリティ領域の研修を重複させる連動研修も選択できるため、希望する科で重点的に診療を行うことが可能です。また、サブスペシャリティを決めていない専攻医については、研修中に広く内科の症例を経験しながら専門領域を決めることができます。

10. 研修に関するお問い合わせ先

- ・担当者 伊藤 薫樹（内科学講座血液腫瘍内科分野）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail shigei@iwate-med.ac.jp

【外 科】

1. プログラム名：岩手医科大学外科専門研修プログラム
(定員 10名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：佐々木 章
(外科学講座教授)

3. 研修年限：3年間

4. 当院指導医数 10 名



5. 連携施設 (16 施設)

函館五稜郭病院、八戸赤十字病院、かづの厚生病院、能代厚生医療センター、中通総合病院
岩手県立二戸病院、岩手県立久慈病院、岩手県立宮古病院、岩手県立中部病院、
岩手県立釜石病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立千厩病院、岩手県立磐井病院、
盛岡市立病院、盛岡赤十字病院、盛岡友愛病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

- 大学病院ならではの先端医療を学ぶことができます。
 - 外科系全領域を経験可能です。
 - ◇ 特に救急領域では地域の中核機関としての役割を担っており、短期間に目標の修練数経験を達成可能です。
 - 豊富な腹腔鏡／ロボット／胸腔鏡手術数、内視鏡外科学会技術認定医数
 - ◇ 豊富な症例数と指導医（技術認定医）を有しており、多くの症例数と先端の技術を学ぶことが可能です。
 - 肝移植（生体及び死体）、肥満・糖尿病に対する手術
 - ◇ 一般病院では経験できない、高度先進医療を経験することが可能です。
 - 各種臨床試験、治験への参加
 - ◇ 外科臨床のエビデンス構築の過程に参加することで、リサーチマインドの形成と臨床研究のあり方に関して学ぶことができます。
 - 大学院、学位志望者には専門研修と臨床研究の両立が可能です。
 - ◇ 大学院コースが選択可能です。
- 多地域に及ぶ連携施設での多様な修練
 - 岩手県内の地域医療を担う各種県立病院と連携しており、各種奨学生の義務年限の対応も可能です。
 - 岩手県沿岸の地域中核病院では、被災地医療の現状を学ぶことができます。
 - 各二次医療圏の中核病院の役割、病病連携、病診連携のシステムを理解するとともに、在宅医療、緩和ケア医療等を経験することが可能です。
 - 豊富な症例数を有する地域基幹病院では、多数の手術経験とともに各種先端医療を経験することができます。

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

＜専門研修 1 年目＞

連携施設に所属し、研修を行います。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/
乳腺・内分泌経験症例数 200 例以上（術者 30 例以上）

＜専門研修 2 年目＞

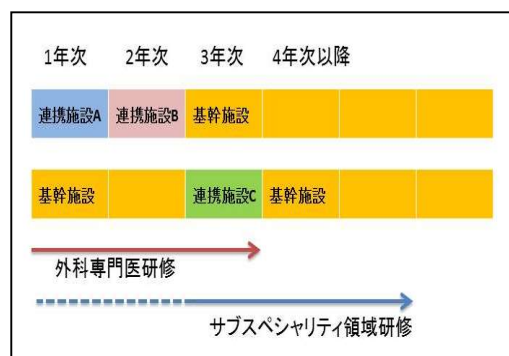
連携施設に所属し、研修を行います。

一般外科/麻酔/救急/病理/消化器/心・血管/呼吸器/小児/
乳腺・内分泌経験症例数 350 例以上/2 年（術者 120 例
以上/2 年）

＜専門研修 3 年目＞

積極的に希望のサブスペシャリティ領域の研修を行います。また不足症例に関して各領域のローテーションも可能です。原則として、岩手医科大学附属病院で研修を行います。

【ローテーション例】



8. 研修内容・方法

（サブスペシャリティ領域などの専門医連動コース）

岩手医科大学外科専門医プログラムは、原則サブスペシャリティ領域専門医取得への連動を目指します。消化器外科領域は、関連施設で十分な症例経験を積むことが可能です。心臓血管外科、呼吸器外科、小児外科または乳腺外科領域を目指す専攻医は、基幹病院での研修を優先にします。

（大学院コース）

大学院に進学し、臨床研究または学術研究・基礎研究を開始します。ただし、研究専任となる基礎研究は、研修期間3年間のうち6ヶ月以内となります。具体的には、専門研修3年目に大学院への入学が可能です。

（社会人大学院コース）

岩手医科大学大学院、社会人大学院を選択した専攻医は、研修期間1・2年目を岩手医科大学附属病院にて研修を行います。臨床に従事しながら学位修得を目指します。この場合においても、研究専任となる期間は6ヶ月以内となります。研修期間3年目には連携病院に所属し研修を行います。

（岩手県奨学生コース）

岩手県地域枠奨学生、岩手県医療局奨学生は連携施設での研修の際は、義務年限の対応を行うべく岩手県立病院への配属を優先して行います。基幹病院での研修・研究に関しては専攻医の希望を優先し柔軟に対応します。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

外科専門医取得後には、消化器外科専門医、心臓血管外科専門医、呼吸器外科専門医、小児外科専門医といったサブスペシャリティ領域の専門医取得が可能です。本プログラムにおいては、サブスペシャリティ領域連動を踏まえた研修が可能です。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 馬場 誠朗 (外科学講座)
- ・電話番号 019 - 613 - 7111 (附属病院)
- ・E-Mail bashige@iwate-med.ac.jp

【脳神経外科】

1. プログラム名：岩手医科大学 脳神経外科専門研修プログラム
(定員 5名／年)
2. 専門研修プログラム統括責任者：赤松 洋祐（脳神経外科学講座教授）
3. 研修年限：4年間
4. 当院指導医数 12 名
5. 連携施設（11施設）

八戸赤十字病院、盛岡赤十字病院、能代厚生医療センター、岩手県立中部病院、岩手県立大船渡病院、かづの厚生病院、岩手県立二戸病院、岩手県立宮古病院、国立病院機構盛岡病院、南昌病院、北里大学病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学脳神経外科研修プログラム（以下、本プログラム）では、岩手医科大学のみでなく、岩手県立中部病院、岩手県立二戸病院、岩手県立宮古病院、岩手県立大船渡病院、八戸赤十字病院、盛岡赤十字病院に常勤医師を派遣しており、マンツーマン指導を受けることが可能です。

本プログラムでは、2年目の専門研修から脳神経外科専門医としての診断、治療にかかわる知識・技術の修得を目指します。さらに臨床のみだけでなく、神経科学に関する基礎知識、研究経験は脳神経外科医にとって極めて重要であるとの考えから、卒後1年目から大学院に進学して臨床医学的または基礎医学研究を行うことを基本としています。

基幹施設である岩手医科大学附属病院では、伝統的に脳循環・代謝に関する研究、手術の技術に関する研究、画像研究が盛んであり、大規模な学会（日本脳神経外科学会総会、日本脳神経外科コンgres、日本脳卒中学会、日本脳卒中の外科学会、日本脳循環代謝学会、国際脳・脊髄動静脈奇形学会など）を主催し、数多くの英語論文も世界へ発信してきました。また、近年ではパーキンソン病や脊椎・脊髄疾患への外科治療、内視鏡下低侵襲手術、脳血管内治療なども行っています。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

パターン	研修年次	研修施設名	研修内容
A	1	岩手医科大学	脳神経外科一般、外傷、脳血管障害
	2	岩手医科大学	脳腫瘍、脊椎脊髄、小児、機能
		岩手県立大船渡病院	脳神経外科一般
	3	岩手県立中部病院	脳神経外科一般
		八戸赤十字病院	脳神経外科一般、脳血管内治療
	4	岩手医科大学	脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄、機能、小児
B	1	岩手医科大学	脳神経外科一般、外傷、脳血管障害
	2	岩手医科大学	脳腫瘍、脊椎脊髄、機能、小児
		岩手県立中部病院	脳神経外科一般
	3	八戸赤十字病院	脳神経外科一般、脳血管内治療
		岩手医科大学	脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄、機能、小児
	4	岩手県立宮古病院	脳神経外科一般
C	1	岩手医科大学	脳神経外科一般、外傷、脳血管障害
		岩手県立二戸病院	脳神経外科一般
	2	岩手県立中部病院	脳神経外科一般
		八戸赤十字病院	脳神経外科一般、脳血管内治療
	3	盛岡赤十字病院	脳神経外科一般
		岩手医科大学	脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄、機能、小児
	4	岩手医科大学	脳腫瘍、脳血管障害、脊椎脊髄、機能、小児

上記3パターンを示しておりますが、研修施設の状況によっては変更の可能性もあります。その場合には、到達目標が達成できるようにローテーションを組みます。

8. 研修内容・方法

上表の研修モデルに従い、到達目標の達成をめざして研修を進めます。

1年目は脳神経外科の基礎を学び、2年目の専門研修から脳神経外科専門医としての診断・治療にかかわる知識・技術の修得を目指します。その後、各連携施設とローテーションしながら、研修を進めていきます。

臨床現場以外では、週に2回は岩手医大と全ての県立病院を光回線をつなぐテレビ会議に出席でき、手術術前・術後検討会や研究報告会を通じて、多くのスタッフと知識や技術などを共有できます。また、1年に数回行われる講演会や顕微鏡手術トレーニングセミナー（動物を用いたウェットラボ、人工血管や3Dプリンタを用いたドライラボ）への参加により、自身のモチベーションを上げられます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

学会より円滑で十分な研修支援が得られており、当プログラム終了後も専攻医の選択したサブスペシャリティ領域の研修に移ることができます。

10. プログラムに関する問い合わせ先

- ・担当者 佐浦 宏明（脳神経外科学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail hsaura@iwate-med.ac.jp

【整形外科】

1. プログラム名：岩手医科大学 整形外科専門研修プログラム
(定員 8名／年)
2. 専門研修プログラム統括責任者：佐藤 光太朗（整形外科科学講座特任准教授）
3. 研修年限：3年9か月
4. 当院指導医数 14 名

5. 連携施設（17 施設）

八戸赤十字病院、盛岡赤十字病院、岩手県立中部病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立二戸病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立釜石病院、岩手県立宮古病院、北上済生会病院、かづの厚生病院、盛岡市立病院、桧内病院、大町病院、総合花巻病院、岩手県立療育センター、岩手県立久慈病院、国立病院機構盛岡医療センター

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学整形外科専門研修プログラム（以下、本プログラム）は、到達目標を「患者に寄り添い、社会貢献できるプロフェッショナルとしての整形外科医師」としています。

岩手医科大学整形外科（以下、本整形外科）では、研修病院の豊富な症例数と優れた指導医の配置を背景に、独自の後期プログラムを構築・運用してきました。その経験と実績により洗練された研修を本プログラムで提供します。

開講 80 年以上の伝統を誇る本整形外科は、多くの同門会員による支援や研修病院の豊富な症例数、経験豊かな指導医により、専攻医の皆様には素晴らしい研究環境を提供し、個々の能力を最大限に引き出す研修を目指します。

本整形外科では、整形外科全領域に渡る研究・教育・診療体制が整備されています。診療・研究グループとしては、脊椎、股関節・小児整形外科、膝関節・スポーツ医学、手外科・マイクロサージャリー、肩関節外科、足の外科、リウマチ、骨軟部腫瘍などの診療・研究グループがあります。連携施設にはスポーツ医学、手外科、脊椎外科、関節外科、救急医療、リハビリテーションなどそれぞれに特色をもった施設や病院があり、機能的なローテーションによりプライマリ・ケアから最先端の臨床・研究までを学ぶことができます。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

	1 年目	2 年目	3 年目	4 年目	
専攻医 1	基幹施設	基幹施設	八戸赤十字病院	かづの厚生病院	
専攻医 2	基幹施設	基幹施設	盛岡赤十字病院	岩手県立大船渡病院	岩手県立久慈病院
専攻医 3	基幹施設	基幹施設	岩手県立中部病院	岩手県立大船渡病院	岩手県立療育センター
専攻医 4	基幹施設	基幹施設	岩手県立胆沢病院	岩手県立宮古病院	盛岡医療センター
専攻医 5	北上済生会病院	栃内病院	基幹施設	岩手県立中部病院	
専攻医 6	八戸赤十字病院	北上済生会病院	基幹施設	大町病院	
専攻医 7	盛岡赤十字病院	盛岡市立病院	基幹施設	北上済生会病院	
専攻医 8	岩手県立大船渡病院	八戸赤十字病院	基幹施設	総合花巻病院	

専攻医 1 から 4 は、社会人大学院に入学している専攻医が岩手医科大学整形外科で研究を行うことにより、大学院の研究を継続しながら専門研修プログラムの履修ができます（大学院で整形外科以外の科を専攻している場合には、専門医プログラムの履修は中断となります）。

※上記は一例であり、研修場所は専攻医の研修進捗状況を踏まえ、変更になる場合があります。

8. 研修内容・方法

整形外科専門研修では、1 か月の研修を 1 単位とする単位制をとり、全カリキュラムを a. 脊椎 b. 上肢・手 c. 下肢 d. 外傷 e. リウマチ f. リハビリテーション g. スポーツ h. 地域医療 i. 小児 j. 腫瘍 の 10 の領域に分割し、専攻医が基幹病院および連携施設をローテーションすることで、それぞれの領域で定められた修得単位数以上を取得し、3 年 9 か月で 45 単位を修得するプロセスで研修します。また、経験すべき症例についても、基幹施設および連携施設で偏りなく経験できます。

すべての専攻医は、医師不足地域中小病院および東日本大震災被災地域中核病院に 3 ヶ月以上勤務します。地域内での活動として、運動器検診に参加する機会を与えます。

臨床現場を離れた学習として、専攻医が学術発表を年 1 回以上、また論文執筆を研修期間中に 2 本以上行えるように指導します。また、すべての専攻医が、自らの症例を用いて研究した成果を発表するカンファレンス「雫石レジデントセミナー」を年 1 回開催します。その他カンファレンスやセミナーを随時開催し、獲得できていない知識を付けることのできるような機会を与えます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

整形外科のサブスペシャリティ領域は、日本脊椎脊髄病学会専門医、日本手外科学科専門医、日本リウマチ医学会専門医があります。本プログラムの岩手医科大学附属病院および各連携施設には、これらのサブスペシャリティ領域の研修施設が複数ずつ含まれております。整形外科専門研修期間から、これらのサブスペシャリティ領域専門研修や学術活動を支援します。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 三又 義訓（整形外科学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail k-seikei@iwate-med.ac.jp

【形成外科】

1. プログラム名：岩手医科大学形成外科専門研修プログラム
(定員 4名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：櫻庭 実（形成外科学講座教授）

3. 研修年限：4年間

4. 当院指導医数 3 名

5. 連携施設（16 施設）

岩手県立中央病院、岩手県立磐井病院、岩手県立宮古病院、岩手県立中部病院、
岩手県立久慈病院、岩手県立釜石病院、JA かつの厚生病院、青森県立中央病院、
奈良県立医科大学附属病院、岡山大学病院、日本医科大学付属病院、東京科学大学病院
大阪医科薬科大学病院、東北大学病院、東京大学医学部附属病院、弘前大学医学部附属病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学形成外科研修プログラムでは、先天性あるいは後天性に生じた組織欠損や機能障害、醜状を外科的手技や特殊な手法を駆使することにより回復させ、Quality of Life の向上に貢献する形成外科専門分野の研修を行います。国民の健康・福祉の増進に貢献できるよう、この領域における知識と技能、社会性、倫理性など、医師としての適性を備えた専門医を育成することを目標としております。

本研修プログラムでは、岩手医科大学形成外科を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。基幹施設である岩手医科大学では、主として腫瘍や先天異常に関する疾患及び重度外傷を、連携施設では一般日常診療に必須である外傷・炎症・変性疾患などを数多く経験することができます。双方で研修することにより、それぞれの特徴を生かした症例や技能を広く学ぶことができます。

各施設によって分野や症例数が異なるため、専攻医が専門研修カリキュラムに沿って可能な限りのバラエティに富んだ症例を経験できるよう、必要に応じこれらの施設群をローテートし、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。

指導体制は、各専門分野のグループ長が直接指導する体制を取っています。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

年次	研修施設	研修内容
1	岩手医科大学 岩手県立中央病院等	病歴聴取、診断確定の検査、基本的な治療（切開、縫合、植皮術など）、偶発症に対する処置など
2	岩手県立磐井病院、 岩手県立宮古病院等	1年目の研修事項を確実にを行う前提で、手術を中心とした基本的技能（局所皮弁、島状皮弁、形成術など及び各種保存方法、レーザー治療）
3	岩手医科大学	マイクロサージャリーをはじめとする高度な技術を要する手術手技を習得し、先天異常や腫瘍切除後の再建を行う。学会発表・論文作成を行うための知識を習得する。
4	岩手医科大学	専攻医自身が主体となり、治療方針を立案し、治療を進めていく。他科医師と協力の上、治療する能力を身に付ける。

表は一例になりますが、岩手医科大学および連携施設で、すべての形成外科専門医カリキュラムを達成することを目標にします。但し、それぞれの施設には取り扱う疾患の分野にばらつきがあるため、不足分を補うように病院間での異動を行っていきます。

8. 研修内容・方法

研修内容は上記の研修モデルに記載のとおりとなりますが、基幹施設と連携施設を合わせた研修施設群全体について、専攻医1名あたり4年間で最低300例（うち執刀数80例）の経験（執刀）症例数を必要とします。その症例数を満たすため、研修を進めていきます。

特に、岩手医科大学研修期間中には、臨床だけでなく基礎実験の助手など基礎研究に携わることによって、早期からリサーチマインドを育てていきます。また、症例報告などの論文作成も行い、論文作成能力の向上を図っていきます。

専攻医も、自らの診療内容を常にチェックし、上級医とのディスカッションにより自己研鑽・自己学習し、知識を補足することが求められます。具体的には、他科との合同カンファレンス、連携施設との症例検討会、学術集会、学会参加などへの積極的な参加が推奨されます。また、医療安全や指導法、評価法などの教育技能も身に付けていただきます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

形成外科専門医を取得した医師は、サブスペシャリティ領域専門医のいずれかを取得することが望まれます。現在サブスペシャリティ領域の専門医には、日本形成外科学会認定の皮膚腫瘍外科分野指導医と小児形成外科分野指導医、再建・マイクロサージャリー分野指導医、レーザー分野指導医、日本創傷外科学会認定の創傷外科専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会認定の頭蓋顎顔面外科専門医、日本熱傷学会認定の熱傷専門医、日本手外科学会認定の手外科専門医、日本美容外科学会（JSAPS）認定の美容外科専門医がありますが、今後拡大していく予定です。

10. 研修に関する問い合わせ先

・担当者	本多 孝之（形成外科学講座）
・電話番号	019 - 613 - 7111（附属病院）
・E-Mail	hondat@iwate-med.ac.jp

【産婦人科】

1. プログラム名：岩手医科大学産婦人科研修プログラム
(定員 7名／年)
2. 専門研修プログラム統括責任者：馬場 長（産婦人科学講座教授）
3. 研修年限：3年間
4. 当院指導医数 14 名
5. 連携施設（9施設）

岩手県立中央病院、盛岡赤十字病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立二戸病院、
岩手県立宮古病院、八戸赤十字病院、北上済生会病院、岩手県立中部病院、
岩手県立磐井病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学産婦人科研修プログラムでは、岩手医科大学附属病院産婦人科（以下、当院産婦人科）を基幹施設とし、連携施設とともに研修施設群を形成して専攻医の指導にあたります。

研修は、基幹施設である当院産婦人科ならびに岩手県内もしくは青森県の連携施設にて行い、2か月～1年ごとのローテートを基本とし、本学産婦人科においては、婦人科悪性腫瘍および合併症妊娠や胎児異常、産科救急、高度生殖医療（対外受精、胚移植）、ロボットや腹腔鏡・子宮鏡低侵襲手術を重点的に研修します。一般市中病院では経験しにくい、これらの疾患を多数経験していただきます。

大学外の関連病院においては、一般婦人科疾患および正常妊娠・分娩・産褥や正常新生児の管理を中心に研修します。外来診療および入院診療は、治療方針の立案、実際の治療、退院まで、指導医の助言を得ながら、自ら主体的に行う研修となります。連携施設には、それぞれ得意とする産婦人科診療内容があり、基幹施設を中心として連携施設をローテートする事で、生殖医療や婦人科腫瘍（類腫瘍を含む）、周産期、女性のヘルスケアの4領域を万遍なく研修する事が可能です。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）



研修する順序、期間は、個々の専攻医の希望と進捗状況にあわせ、決定します。

8. 研修内容・方法

医師としての基本的姿勢（倫理性、社会性ならびに真理追求に関して）を有し、かつ4領域（生殖内分泌、周産期、婦人科腫瘍、ならびに女性のヘルスケア）に関する基本的知識・技能を有した医師（専門医）を育成するため、別途専門研修カリキュラムを用意しております。なお、専攻医が専門医として認定されるためには「専門医共通講習受講（医療安全、医療倫理、感染対策の3点に関しては必修）」「産婦人科領域講習」ならびに「学術業績・診療以外の活動実績」で計50単位必要であるため、専攻医がプログラム履修中に50単位分（論文掲載1編を含む）の活動ができるよう、プログラム統括責任者のもと、指導医は単位取得状況を十分に配慮しながら研修を進めていきます。

臨床現場を離れた学習として、学術集会やセミナーへの参加や「産婦人科専門医のための必修知識」を用いた勉強会を定期的に行い、その内容を深く理解します。また、eラーニングや教育DVDを利用し、自己学習を進めていきます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

岩手医科大学産婦人科研修プログラムには、多様 Subspecialty 専門医がいます。専攻医が専門医取得後に「Subspecialty 産婦人科医養成プログラム」として、産婦人科4領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動も提示していきますので、期待してください。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 羽場 巖（産婦人科学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）

【小児科】

1. プログラム名：岩手医科大学附属病院小児科専攻医プログラム
(定員 9名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：赤坂 真奈美（小児科学講座教授）

3. 研修年限：3 年間

4. 当院指導医数 10 名

5. 連携施設（20 施設）

岩手県立二戸病院、岩手県立中央病院、岩手県立中部病院、岩手県立磐井病院、
岩手県立大船渡病院、岩手県立釜石病院、岩手県立宮古病院、岩手県立久慈病院、
岩手県立療育センター、川久保病院、みちのく療育園、北上済生会病院、盛岡赤十字病院、
国立盛岡医療センター、昭和大学病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学藤が丘病院、
昭和大学江東豊洲病院、八戸赤十字病院、かづの厚生病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学附属病院小児科専攻医プログラムでは、小児に頻度が高い疾患をもれなく経験することで、病歴から問題点を明確化して診察・鑑別診断・検査によって適切な診断的アプローチができ、治療計画を立てられる能力と、小児に対する基本的手技、およびチーム医療・問題対応・安全管理の能力を獲得できるよう研修を行います。

基幹施設である岩手医科大学矢巾新附属病院の小児医療センターは、多くの診療科との協働により、24 時間 365 日小児の高度医療を提供しています。入院施設は附属病院 7 階に集約され、小児病棟「もりもり広場™」58 床と総合周産期母子医療センターの新生児集中治療室（neonatal intensive care unit, NICU）24 床、回復期治療室（growing care unit, GCU）14 床の計 96 床からなります。集中治療を要する子どもには附属病院 4 階の小児集中治療室（pediatric intensive care unit, PICU）や循環器集中治療室（circulatory intensive care unit, CICU）、一般集中治療室（general intensive care unit, GICU）で対応しています。

また、岩手県の面積は、東京都・埼玉県・千葉県・神奈川県を合わせた面積よりも広いいため、医療情報通信技術を活用して、連携施設との間でネットワークシステムを構築しています。電子カルテの端末と一体化したテレビ会議システムを利用して医療支援を行うとともに、当科の症例検討会等には、遠隔地域連携病院に勤務中であっても参加することが可能です。詳細はプログラム（カリキュラム）冊子を参照ください。

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

小児科専攻医プログラムは、3年間（36か月間）と定められています。諸事情により十分な研修ができなかった場合は研修期間を延長し、研修先の変更をすることがあります。本プログラムにおける研修施設群と、年次毎の研修モデルは下表のとおりです。

地域医療研修は、20 の専門研修連携施設の中で経験するようにプログラムされています。

	1年次				2年次				3年次			
専攻医 イ	1	2	3	4	1	5	6	7	1	8	9	10
専攻医 ロ	1	11	2	3	12	1	13	14	15	1	16	17
専攻医 ハ	1	3	4	1	18	18	18	18	18	18	18	18

一枠は3か月単位、1：岩手医大附属病院、2：二戸病院、3：中央病院、4：中部病院、5：磐井病院、6：大船渡病院、7：釜石病院、8：宮古病院、9：久慈病院、10：療育センター、11：盛岡医療センター、12：川久保病院、13：北上済生会病院、14：盛岡赤十字病院、15：八戸赤十字病院、16：かづの厚生病院、17：みちのく療育園、18：昭和大学病院

初期研修終了後、1：岩手医科大学附属病院（基幹病院）に所属し、外来、小児病棟（新生児、循環器、血液・腫瘍、神経、腎臓、消化器、アレルギー、内分泌）を経験後、2～17の関連病院において、専攻医1～2人が配属となり、3～6か月ごとにローテーションして3年間の研修を行うシステムとなっています。応急対応の日当直は、始めは指導医とともに従事し、2～3か月後から一人でできるようにしています。なお上記モデルの研修ローテーションの場所や順番は変更されることがあります。専攻医は特例として1年目を岩手医大で、2年目以降を18：昭和大学病院とその関連病院で研修します。

8. 研修内容・方法

1年次	健康な子どもと家族、common disease、小児保健・医療制度の理解 基本的診療技能（面接、診察、手技）の修得 小児科総合医、育児・健康支援者としての役割の自覚
2年次	病児と家族、重症疾患・救急疾患の理解 診療技能に習熟し、重症疾患・救急疾患に的確に対応 小児科総合医としての実践力向上、後輩の指導
3年次 (チーフレジデント)	高度先進医療、希少難病、障がい児の理解・技能の修得 子どもの代弁者、学識者、プロフェッショナルとしての実践 専攻医とりまとめ、後輩の指導、研修プログラムへの積極的関与

9. サブスペシャリティ領域との連続性

現在、小児科に特化した subspecialty 領域としては、周産期専門医・新生児（日本周産期・新生児医学会）、小児神経専門医（日本小児神経学会）、小児血液・がん専門医（日本小児血液・がん学会）、小児循環器専門医（日本小児循環器学会）の4領域があります。ほかに、小児科のほとんどの subspecialty 領域の専門医資格が取得できます。本プログラムでは、基本領域の専門医資格取得から、subspecialty 領域の専門研修へと連続的な研修ができるように配慮します。

10. カリキュラム制(単位制)による研修制度

「プログラム制」を基本とし、「プログラム制」で研修を行うことが適切でない合理的な理由がある場合には、「カリキュラム制(単位制)」による研修を選択できます。

カリキュラム制（単位制）による研修制度の対象となる医師

- 1) 義務年限を有する医科大学卒業生、地域医療従事者（地域枠医師等）
- 2) 出産、育児、介護、療養等のライフイベントにより、休職・離職を選択する者
- 3) 海外・国内留学する者
- 4) 他科基本領域の専門研修を修了してから小児科領域の専門研修を開始・再開する者
- 5) 臨床研究医コースの者
- 6) その他、日本小児科学会と日本専門医機構が認めた合理的な理由のある場合

11. 研修に関する問い合わせ先

・担当者 中野 智（小児科学講座）
 ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
 ・E-Mail satoshi faction058@gmail.com

【耳鼻咽喉科】

1. プログラム名：岩手医科大学附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラム
(定員 3名／年)
2. 専門研修プログラム統括責任者：池田 怜吉（耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座准教授）
3. 研修年限：4年間
4. 当院指導医数 4 名
5. 連携施設（4施設）
岩手県立中央病院、盛岡赤十字病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立中部病院
6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学耳鼻咽喉科専門研修 PG（以下、岩手医科大学耳鼻科 PG）では、2つのコースを用意しており、専門研修基幹施設である地方大学病院と、地域の中核医療を担う病院群（岩手県立中央病院、盛岡赤十字病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立中部病院）計5の研修施設において、それぞれの特徴を活かした耳鼻咽喉科・頭頸部外科研修を行い、研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験します。

岩手医科大学附属病院では、特に耳科手術の件数は全国でもトップクラスです。また、各地のがん専門病院とも連携があり、頭頸部がん診療を専門とする指導医の指導を受けられるなど、高度な研修が可能です。社会人大学院へ進学し、診療・研修を行いながら基礎研究や臨床研究を行う事も可能です。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科領域の疾患は、小児から高齢者まで幅広い年齢層が対象で、外科的治療のみならず内科的治療も必要とし、幅広い知識と医療技能の習得が求められています。岩手医科大学耳鼻科 PG では、医療の進歩に応じた知識・医療技能を持つ耳鼻咽喉科専門医を養成し、医療の質の向上と地域医療に貢献することを目的としています。また、診療技能のみならず、学会発表や論文作成を通じ、科学者としての能力を習得することも目標としています。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

【研修コース例】

1. Advanced コース

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目
岩手医科大学附属病院（社会人大学院）	地域の中核病院	地域の中核病院	

2. Basic コース

1 年目	2 年目	3 年目	4 年目
岩手医科大学附属病院	地域の中核病院	岩手医科大学附属病院	

岩手医科大学附属病院耳鼻咽喉科専門研修プログラムでは、上表の2つのコースを用意しております。

1. Advanced コースでは、社会人大学院として臨床研究を進めながら専門研修を行うコースとなっており、2. Basic コースでは専門研修を集中して行う一般的なコースです。

いずれのコースを選択しても、4年間の研修修了時にはすべての研修到達目標を達成できるよう、プログラムを進めていきます。

8. 研修内容・方法

専攻医は4年間の研修期間中に、外来あるいは入院患者の管理を受け持ち医として実際に診療経験しなければなりません。指導医のもと、1年目は岩手医科大学附属病院で耳鼻咽喉科・頭頸部外科の基本的知識、診療技術を習得します。2年目・3年目は、地域の中核医療を担う病院群のいずれかにおいて研修を行います。地域中核病院群は、Common diseaseの症例数が豊富で手術件数が多く、救急疾患も多く扱う病院群ですので、その研修で手術手技や救急疾患の対応などを習熟します。4年目は岩手医科大学附属病院で研修を行います。

4年間の研修中、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科認定学会において学会発表を少なくとも3回以上行います。また、筆頭著者として学術雑誌に1編以上の論文執筆・公表を行います。そのために積極的に科学的根拠となる情報を収集、分析し、日々の診療に活かすよう、日頃から科学的思考、生涯学習の姿勢を身につけます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

耳鼻咽喉科・頭頸部外科がカバーする領域は非常に広範であり、耳鼻咽喉科専門医所得後、自分の興味、適性に合わせて、各領域のスペシャリストとすることができます。取得可能なのは、頭頸部がん専門医、気管食道科専門医、がん治療認定医、耳科手術指導医、鼻科手術指導医などです。

10. 研修に関する問い合わせ先

・担当者 池田 怜吉（耳鼻咽喉科頭頸部外科学講座）
・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
・E-Mail ryoukich@iwate-med.ac.jp

【眼 科】

1. プログラム名：岩手眼科専門研修プログラム
(定員 3名/年)
2. 専門研修プログラム統括責任者：黒坂 大次郎
(眼科学講座教授)
3. 研修年限：4年間
4. 当院指導医数 11 名



5. 連携施設 (13 施設)

【連携施設 (9 施設)】

岩手医科大学附属内丸メディカルセンター、岩手県立中央病院、岩手県立中部病院、岩手県立二戸病院、盛岡赤十字病院、北上済生会病院、昭和大学病院、慶應義塾大学病院、国立成育医療研究センター

【関連施設 (4 施設)】

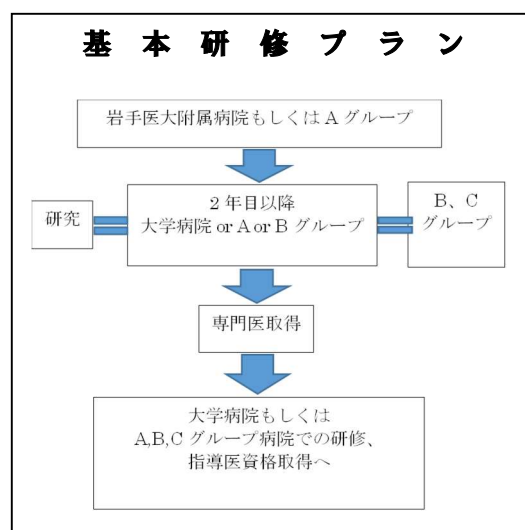
岩手県立久慈病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立磐井病院、盛岡市立病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学附属病院 (標榜診療科 48 科、病床数 1,000 床) では、幅広い分野の紹介患者があり、令和 6 年の手術件数 (附属病院、内丸メディカルセンター) は、白内障手術 1,670 件、硝子体手術 728 件、緑内障手術 179 件、斜視手術 53 件、角膜・強膜移植術 3 件、涙道手術 18 件と、眼科専門医が研修すべき、ほぼすべての手術を施行している。病棟や外来にチームはなく、すべての専攻医があらゆる疾患の担当になり、上級医と治療方針を検討して手術助手を務め、また、執刀する機会がある。ロービジョン、遺伝相談等はプログラム統括責任者が指導する。

7. 研修モデル (各年次のローテート例)

岩手眼科専門研修プログラムでは、専門研修基幹施設である岩手医科大学医学部附属病院と、地域の中核病院 A グループ、地域医療を担う B グループ、関連病院 C グループの計 30 の研修施設において、それぞれの特徴を活かした眼科研修を行い、日本眼科学会が定めた研修到達目標や症例経験基準に掲げられた疾患や手術を経験する。4 年間の研修期間中、1 年目から 4 年目までを岩手医科大学附属病院と A、B グループの病院群のいずれかで研修を行う。B および A グループの病院群は症例数が豊富で、救急疾患も多く扱う病院群である。岩手医科大学附属病院では、希少疾患や難病を経験し、内眼手術の件数、指導医も多いのでこの期間に手術手技の基本を習得する。2 年目以降は、岩手医科大学附属病院または A、B グループの病院に所属しながら、



BグループやCグループでの地域医療を同時に経験する。大学病院やAグループ病院での、やや高度な診療を経験すると同時に、BおよびCグループの病院で common disease をより多く経験することができる。社会人大学院に進学し、診療・研修を行いながら研究を行うことも可能である。専攻医の希望になるべく沿ったプログラムを構築するが、いずれのコースを選んでも最終的に研修到達目標に達することができるようにローテーションを調整する。また、専攻医間で格差がないような工夫をする。

A グループ：地域の中核病院

岩手医科大学附属内丸メディカルセンター、岩手県立中央病院、岩手県立中部病院、岩手県立二戸病院、盛岡赤十字病院、北上済生会病院

B グループ：地域医療を担う病院

岩手県立久慈病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立磐井病院、盛岡市立病院

C グループ：非常勤の関連病院

市立三沢病院、八戸赤十字病院、岩手県立宮古病院、岩手県立山田病院、岩手県立釜石病院、岩手県立遠野病院、岩手県立江刺病院、岩手県立胆沢病院、せいてつ記念病院、岩手県立千厩病院、岩手県立大槌病院、岩手県立高田病院、国民健康保険葛巻病院、恩賜記念病院岩手県済生会岩泉病院、医療法人友愛会盛岡友愛病院、大迫医療センター、市立角館総合病院、かづの厚生病院

【研修コース】

1年目	岩手医科大学附属病院もしくはAグループでの研修病院での研修
2～4年目	大学病院、A、Bグループの病院に所属しながら、B、Cグループの病院での研修を並行して行う。希望者は大学院での研究も並行して行い、学位を取得することができる。
5年目	専門医認定試験受験

8. 研修内容・方法

研修方法は、各プログラムの疾患の基本について研修を行い、基本的検査、診断技術および処置を習得し、それぞれのプログラムの到達目標を目指す。毎週行っている症例カンファレンスにも参加する。NICU・高次救命救急センターを備えた医師臨床研修指定施設なので、他科との連携委員会を中心にあらゆる全身疾患に関わる眼症状も研修する。また、学会報告や論文作成の機会も豊富にある。当院での研修期間中は学会活動の機会を得やすいよう配慮している。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

学会や日本専門医機構において検討中。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 西田 泰典（眼科学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）

【皮膚科】

1. プログラム名：岩手医科大学医学部皮膚科研修プログラム
(定員 6名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：天野 博雄
(皮膚科学講座教授)

3. 研修年限：5年間

4. 当院指導医数 9 名

5. 連携施設（5施設）

(連携施設、日本皮膚科学会認定研修施設)
岩手県立中央病院、岩手県立中部病院

(準連携施設)

盛岡赤十字病院、岩手県立磐井病院、赤坂病院



6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学皮膚科研修プログラム（以下、本プログラム）では、2連携施設と3準連携施設で構成されたプログラムです。特定機能病院としての高度な医療を訓練し、内丸メディカルセンターで外来研修も行います。また、連携施設・準連携施設と協力した研修が可能です。

本プログラムでは、各研修施設の特徴を生かした7種類のコースを用意しております。いずれのコースを選択しても、皮膚科専門医としての基本的知識、臨床技能の習得が可能です。皮膚科診療のなかでのサブスペシャリティの習得を考えている専攻医は、希望により自身の追加的専門領域について深く学習することが可能となります。

岩手医科大学は、医・歯・薬・看護学部があり、4学部連携による独自の最先端医療を進めており、主たる診療科のみならず学部を横断する研修やカンファランスで、それぞれの専門的視点概念を駆使し、症例毎の対処方法を検討しております。また、難易度の高い専門性を必要とする疾患の治療に参加したり、疾患の発症メカニズムの解明に至る研究にも着手する経験も得られます。

本プログラムでは、症例を特定の期間に限って経験するだけでなく、主担当医として外来初診から入院、治療（薬物治療や局所処置、手術など）、退院、通院治療に至るまでの一連の流れを担当していただき、症例ごとの身体状態、社会的背景・環境調整など、包括的な医療行為の実践を経験できます。

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

岩手医科大学皮膚科研修プログラムでは、次表に記載されたaからgの7つの研修コースを用意しております。いずれのコースにおいても、修了基準を満たす症例経験等を行うことが出来るようにいたします。

コース	研修1年目	研修2年目	研修3年目	研修4年目	研修5年目
a	基幹施設	基幹施設	連携施設	連携施設	基幹施設
b	基幹施設	基幹施設	連携施設	連携施設	連携施設
c	連携施設	連携施設	基幹施設	基幹施設	基幹施設
d	基幹施設	連携施設	連携施設	連携施設	基幹施設
e	基幹施設	連携施設	連携施設	準連携施設	基幹施設
f	基幹施設	連携施設	連携施設	大学院 (研究)	大学院 (研究)
g	大学院 (臨床)	大学院 (臨床)	大学院 (研究)	大学院 (研究)	基幹施設

- a：基本コース b：臨床医重点コース c：連携施設からスタートするコース
d：研修2年目に連携施設、3年目に悪性腫瘍専門施設で研修し、皮膚外科医を目指すコース
e：4年目に一人医長として準連携施設にて研修するコース
f：研修後半から博士号取得を目指すコース
g：専門医と博士号取得を同時に行うコース

※ いずれのコースにおいても、研修施設の事情により時期等が変更となることがあります。

8. 研修内容・方法

基幹施設での研修を中心に診察医に陪席し、外来診察、皮膚科的検査、治療を経験します。

病棟では、病棟医長のもと複数の診療チームを構成します。専攻医は、指導医のもと担当患者の診察、検査、外用療法、手術手技を習得します。毎週の病棟回診で受け持ち患者のプレゼンテーションを行い、評価を受けます。また、毎週の病理カンファレンスで症例発表を行います。

臨床現場以外では、次のことを主として実施し、知識を深めていきます。

- ・抄読会を1回/2週実施し、英文論文を紹介します。
- ・皮膚科学会主催の必須講習会を受講し、年2回以上筆頭演者として学会発表を行います。
- ・皮膚科関連の学会、学術講演会、セミナーに積極的に参加します。
- ・病院が実施する医療安全講習会に定期的に参加します。
- ・年に1編以上、筆頭著者で論文を作成することを目標とします。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

7つのコースの中で、どのコースを選択しても、5年間の研修修了後にサブスペシャリティ領域の研修に移れるよう、横断的に研修をすることができます。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 渡部 大輔 (皮膚科学講座)
- ・電話番号 019 - 613 - 7111 (附属病院)
- ・E-Mail dwatabe@iwate-med.ac.jp

【泌尿器科】

1. プログラム名：岩手医科大学泌尿器科専門研修プログラム
(定員 7名/年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：小原 航
(泌尿器科学講座教授)

3. 研修年限：4年間

4. 当院指導医数 7 名

5. 連携施設 (22 施設)



盛岡赤十字病院、岩手県立中央病院、岩手県立中部病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立二戸病院、岩手県立久慈病院、岩手県立宮古病院、岩手県立釜石病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立磐井病院、岩手県立千厩病院、奥州市総合水沢病院、恵仁会三愛病院、後藤泌尿器科皮膚科医院、八戸赤十字病院、公立相馬総合病院、福島県立医科大学附属病院、財団法人竹田総合病院、昭和大学病院、昭和大学藤が丘病院、昭和大学横浜市北部病院、昭和大学江東豊洲病院

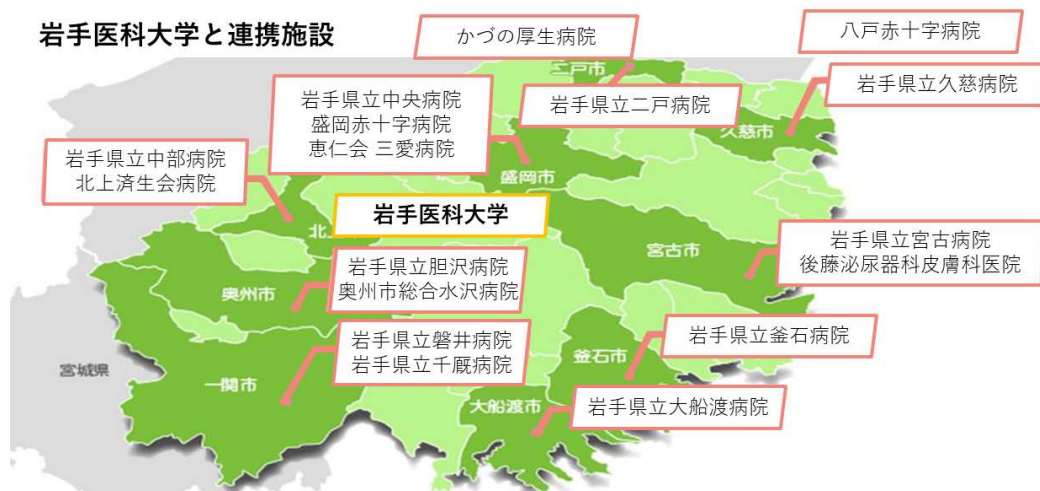
6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学泌尿器科専門研修プログラムは、岩手医科大学附属病院を中心としたいくつかの診療拠点病院と、地域医療を担う地方中核病院の2群から構成されています。

泌尿器科専門医に必要な知識や技能の習得と同時に、地域医療との連携や、他の専門医への紹介・転送の判断も的確に行う能力を身につけることができるよう配慮しました。また、学術的な涵養を目的とした大学院進学コースと社会人大学院進学コース、専門研修後により高い臨床実施能力の獲得を目指す臨床修練コース、岩手医科大学地域枠を卒業し地域医療での義務年限を前提とした地域枠コースの4つから選択することが可能です。

さらに、当研修プログラムを希望された方が当施設の定員を超えた場合、福島県立医科大学、昭和大学と連携したコースを選択できることで、将来岩手県内で泌尿器科専門医として活躍することが可能です。

岩手医科大学と連携施設



7. 研修内容・方法

4年間のうち基本的には研修基幹施設で2年間の研修を行い、それ以外の2年間を研修連携施設で研修することになります。岩手医科大学泌尿器科研修プログラムでは研修終了後も泌尿器科臨床を継続する臨床修練コース、4年目から大学院に進学可能な大学院進学コース、希望があれば研修1年目から大学院に進学可能な社会人大学院進学コース、そして岩手医科大学地域枠を卒業し、地域医療での義務年限を前提とした地域枠コースの4つから選択することが可能であり、さらに当研修プログラムを希望された方が当施設の定員を超えた場合、福島県立医科大学と連携した被災2県大学間連携コースや、昭和大学との連携コースを選択できるコースを設置しています。

臨床現場を離れた学習としては、主には学会発表や参加あるいはeラーニング等による泌尿器科学に関する学習および医療安全や感染管理に関する学習が考えられます。さらに、日本泌尿器科学会総会、東北地方会への出席し知識の収集を行ってもらうだけでなく、自ら発表する機会を積極的に設けるようにしています。また、4年の研修期間中に日本泌尿器科学会東北地方会の優秀演題賞を目標に症例報告に取り組んでももらいます。

泌尿器科学に関する学習に関しては総会、支部総会へ最低年に1回出席して下さい。また各学会では卒後教育プログラムが開催されているのでこれらへの受講を積極的に行うようにして下さい。

8. 各年次のローテーション例

専門研修1年目では基本的診療能力および泌尿器科的基本的知識と技能の習得を目標とします。原則として研修基幹施設である岩手医科大学附属病院での研修になります。指導医は日々の臨床を通して専攻医の知識・技能の習得を指導します。

専門研修の2-3年目は基本的には研修連携施設での研修となります。大学病院では経験しづらい一般的な泌尿器科疾患や泌尿器科処置あるいは手術について重点的に学びます。

専門研修の4年目の研修は泌尿器科の実践的知識・技能の習得により様々な泌尿器科疾患へ対応する力量を養うことを目標とします。また将来的に自分の専門となる分野を見通した研修も開始するよう心がけます。

9. 専門領域との連続性

3年次までに様々な症例を経験した後、4年次の研修より将来的に専門とする分野に関し、積極的に取り組むとともに、学会等を通じて高度な専門的内容を身につけていきます。研修プログラム修了時に専門領域へスムーズに取り掛かることができるようにしています。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 前川 滋克 (泌尿器科学講座)
- ・電話番号 019 - 613 - 7111 (附属病院)
- ・E-Mail maekawa@iwate-med.ac.jp

【放射線科】

1. プログラム名：岩手医科大学連携病院群放射線科専門研修プログラム
(定員 3名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：吉岡 邦浩
(放射線医学講座教授)

3. 研修年限：3年間

4. 当院指導医数 12 名



5. 連携施設（7施設）

(連携施設)

岩手県立中央病院、東北大学附属病院、盛岡赤十字病院、岩手県立中部病院、岩手県立二戸病院

(関連施設)

岩手県対がん協会、八戸赤十字病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学連携病院群放射線科専門研修プログラム（以下、本プログラム）は、岩手医科大学附属病院放射線診断科・治療科を専門研修基幹施設として、岩手県立中央病院、東北大学附属病院放射線診断科・治療科、盛岡赤十字病院放射線科、岩手県立中部病院放射線科、岩手県立二戸病院放射線科を専門研修連携施設とし、さらに岩手県対がん協会、八戸赤十字病院を関連施設として加えた専門研修施設群を統括する専門研修プログラムです。

本プログラムでは、放射線科領域における幅広い知識、錬磨された技能と高い倫理性を備え、コミュニケーション能力とプロフェッショナリズムを備えた放射線科専門医を目標に、放射線科専攻医（以下、専攻医）を教育します。

本学附属病院は日本医学放射線学会認定総合修練機関、専門研修連携施設は日本医学放射線学会認定修練機関として、それぞれ認定されています。また、専門研修関連施設では超音波検査、消化管造影等の研修を岩手医科大学附属病院放射線科の責任のもと、進めています。

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

研修は次の3コースを設定しております。応募時にどのローテーションコースに進むか選ぶことになるので、前もって連絡して下さい。相談で決定します。

コース	専攻医 1 年目	専攻医 2 年目	専攻医 3 年目
A	専門研修基幹施設	専門研修基幹施設	専門研修連携施設
B	専門研修基幹施設	専門研修基幹施設	専門研修連携施設 (岩手県立病院)
C	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)	専門研修基幹施設 (大学院・臨床)	専門研修連携施設 (大学院・臨床)

- コース A：専門研修基幹施設を中心に研修する基本的なコースです。基礎・臨床研究を体験できる体制が整っている基幹施設では、リサーチマインドも滋養します。専門研修連携施設は、研修実績の豊富な岩手県立中央病院・盛岡赤十字病院で実地研修を行います（1～24 か月：岩手医科大学附属病院、25～36 か月：岩手県立中央病院・盛岡赤十字病院）。
- コース B：コース A と同様に、専門研修期間施設を中心に研修するコースですが、専門研修連携施設に岩手県立中央病院等の岩手県立病院を選択するコースです。専門研修連携施設は、原則として研修は 1 年ですが、岩手県や市町村奨学生等で事情がある場合には 2 年の研修も可能です（1～12 か月：岩手医科大学附属病院、13～36 か月：岩手県立中央病院、岩手県立二戸病院、岩手県立中部病院から選択、複数病院の選択も可能）。
- コース C：専門医取得と博士号取得を同時に目指すコースです。大学院に進学し、専門研修基幹施設ならびに専門研修連携施設で研修と研究および講義を両立しながら、博士号取得をめざします。専門研修連携施設は、研修実績が豊富で基幹施設に地理的に近い岩手県立中央病院・盛岡赤十字病院を推奨しますが、奨学生等の事情がある場合や研究テーマによっては、他の連携施設の選択も可能です（1～24 か月：岩手医科大学附属病院、25～36 か月：岩手県立中央病院・盛岡赤十字病院）。

8. 研修内容・方法

専攻医は、専門研修施設群内の施設で専門研修指導医のもとで研修を行います。専門研修指導医は、専攻医が偏りなく到達（経験）目標を達成できるように、放射線科領域専門研修カリキュラムに基づいたレベルと内容で学習指導をします。

専門研修 1 年目は、専門研修指導医の管理のもと、画像検査が実施可能な技能を習得できるよう研修を行います。専門研修 2・3 年目は、放射線科専門医レベルの放射線診断、IVR 治療、放射線治療の知識を 2 年間で習得できるように進めます。3 年目には放射線診断・放射線治療への目標に従ったローテーションの配分を行います。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

本プログラムにて習得した知識、技術をさらに深化・確実なものとし、放射線科専門医として診療できるよう専門医試験に臨むとともに、サブスペシャリティ領域専門医（放射線診断専門医または放射線治療専門医）の方向性を決定できるように助言と指導を行います。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 加藤 健一（放射線医学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail kkato@iwate-med.ac.jp

【精神科】

1. プログラム名：岩手医科大学附属病院連携施設精神科専門医研修プログラム
(定員 10 名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：大塚 耕太郎（神経精神科学講座教授）

3. 研修年限：3 年間

4. 当院指導医数 10 名

5. 連携施設（13 施設）

岩手県立中央病院、盛岡市立病院、岩手県立一戸病院、岩手県立南光病院、未来の風せいわ病院、宮古山口病院、北リアス病院、平和台病院、湊病院、琉球大学病院、沖縄県立八重山病院、田崎病院、嬉野が丘サマリヤ人病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

本施設群は、岩手県内 8 施設および青森県内 1 施設で構成されています。また、琉球大学病院との共同プログラムにより、沖縄県内の 4 施設とも連携しています。基幹病院である岩手医科大学附属病院には、68 床（成人 50 床、児童 18 床）の閉鎖病棟があり、同病棟内には PICU を設置しており、身体合併症を有する症例にも対応可能となっています。難治症例も広く受け入れており、クロザピン治療や m-ECT を実施しています。本施設群の特色として、精神科救急を経験できる機会が多いことが挙げられます。また、大学病院として初めて児童思春期の閉鎖病棟を有しており、県内の各機関から紹介される児童・思春期症例に触れる貴重な機会を提供しています。本学は震災後、こころのケアセンターおよびこどものこころケアセンターを開設しており、トラウマケアや災害医療に関心のある専攻医にとって、得難い学習環境を提供しています。専攻医は連携病院をローテーションしながら、被災地を含むさまざまな地域を経験し、地域医療に必要な知識を身につけることができますようになっています。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

研修年次	1	2	3
研修場所	岩手医科大学附属病院	岩手医科大学附属病院	連携施設

※上表は研修ローテーションの基本例になります。

- ・ 1、2年目を基幹施設である岩手医科大学附属病院で研修し、精神科医としての基本知識を身につけつつ、精神保健指定医ならびに専門医の取得に必要な症例を経験します。
- ・ 上級医のアドバイスを受けながらレポートを作成し、週1日程度連携病院で研修をします。
- ・ 3年目はいずれかの連携病院で常勤医として地域医療や被災地医療に従事します。岩手県全体に広く連携病院を持ち、様々な分野を経験することができ、専攻医の興味関心のある領域に応じて様々なバリエーションを提供できます。
- ・ 専攻医自身に被災経験があるなど、沿岸部に行くことの困難な専攻医については、内陸部の連携施設で地域医療を経験します。
- ・ 未就学児を持つ女性専攻医や、身体疾患をもつ専攻医には、状況に合わせたローテーションメニューを組んでいきます。

8. 研修内容・方法

専攻医は、精神科領域専門医制度の研修手帳に従い、指導医のもとで、主に以下のことについて研修します。

- ・ 患者及び家族との面接
- ・ 疾患概念の病態の理解
- ・ 診断と治療計画
- ・ 補助検査法
- ・ 薬物・身体療法
- ・ 精神療法
- ・ 心理社会的療法など
- ・ 精神科救急
- ・ 児童精神医学
- ・ コンサルテーション・リエゾン精神医学
- ・ 法と精神医学
- ・ 災害精神医学
- ・ 医の倫理
- ・ 安全管理

臨床現場以外での研修として、1年次は東北精神神経学会への発表、2年次以降は全国の学会での発表を経験します。3年次は論文投稿に取り組みます。また、症例検討会やカンファレンスに参加し、エビデンスに基づいた治療姿勢を会得していきます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

3年間の研修プログラム修了後にサブスペシャリティに移ることができるよう、整備していく予定です。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・ 担当者 福本 健太郎（神経精神科学講座）
- ・ 電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・ <https://www.iwate-med-psy.net/>

【麻酔科】

1. プログラム名：岩手医科大学附属病院 麻酔科専門研修プログラム
(定員 8名/年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：鈴木 健二
(麻酔学講座教授)

3. 研修年限：4年間

4. 当院指導医数 8 名

5. 連携施設 (10 施設)

八戸赤十字病院、岩手県立二戸病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立磐井病院
盛岡赤十字病院、岩手県立中部病院、岩手県立中央病院、盛岡市立病院
岩手県立釜石病院、岩手県立宮古病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学附属病院麻酔科専門研修プログラム（以下、本プログラム）は、麻酔科における高度医療を提供するとともに、医療の発展・充実のための指導を担える人材を育成することを目標としたプログラムです。専攻医が専門研修プログラム整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる教育を提供し、十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成していきます。

本プログラムと並行して取得できるサブスペシャリティの資格としては、日本心臓血管麻酔学会専門医・日本ペインクリニック学会専門医・日本集中治療医学会専門医・日本東洋医学会専門医が挙げられます。

本プログラムの基幹施設である岩手医科大学附属病院（写真1）は、高度救急救命センター・循環器医療センター・都道府県がん診療拠点病院などの指定を受けており、当院の中核を担う20室の手術室では器材とスタッフを集中的に配置し、手術が安全かつ効率的に行われるようにしております。臓器移植・ロボット支援手術・心臓血管ハイブリッド手術（写真2）なども行っております。



（写真1）岩手医科大学の全景



（写真2）心臓ハイブリッド手術の様子

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

	A（標準）	B（心臓血管麻酔）	C（ペインクリニック）	D（集中治療）
初年度前期	成人全般・産科麻酔	成人全般・産科麻酔	成人全般・産科麻酔	成人全般・産科麻酔
初年度後期	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔
2年度前期	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔	小児・胸部外科・脳神経外科の麻酔
2年度後期	心臓血管外科の麻酔	心臓血管外科の麻酔	心臓血管外科の麻酔	心臓血管外科の麻酔
3年度前期	集中治療	集中治療	集中治療	集中治療
3年度後期	ペインクリニック	ペインクリニック	ペインクリニック	ペインクリニック
4年度前期	自由選択	心臓血管外科の麻酔	ペインクリニック	集中治療
4年度後期	自由選択	心臓血管外科の麻酔	ペインクリニック	集中治療

原則として、研修初年度の1年間は専門研修基幹施設を含めた各連携施設での基本的技術の習得を行います。2年目以降に心臓血管麻酔・ペインクリニック・集中治療などをローテーションします。

研修内容・進行状況に配慮し、プログラムに所属する全ての専攻医が、経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようにローテーションを構築していきます。

8. 研修内容・方法

主に手術室にて症例を経験していきます。集中治療については集中治療室での研修を行い、術前評価・ペインクリニックについては外来診察室や一般病棟での研修となります。

すべての領域（診療科）を満遍なく回することを基本としますが、心臓血管外科の麻酔を中心に学びたい者へのローテーション（上表ローテーション例：B）、ペインクリニックを学びたい者へのローテーション（上表ローテーション例：C）、集中治療を中心に学びたい者へのローテーション（上表ローテーション例：D）など、専攻医のキャリアプランに合わせたローテーションも考慮いたします。

なお、心臓血管麻酔・集中治療・ペインクリニックについては、岩手県立中央病院での研修も可能であり、ペインクリニックの研修は、岩手県立胆沢病院での研修も可能です。さらに、地域医療に貢献するための各連携施設での研修も随時可能です。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

3年目修了までに得られた経験や技術・知識をもとに専門研修4年目で発展させつつ、本プログラム修了後に目標とするサブスペシャリティへ進めるように準備します。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 鈴木 健二（麻酔学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail kenjis@iwate-med.ac.jp

【救急科】

1. プログラム名：岩手医科大学附属病院救急科専門研修プログラム
プログラム（定員 5名／年）

2. 専門研修プログラム統括責任者：高橋 学
（高度救命救急センター教授）

3. 研修年限：3年間

4. 当院指導医数 7 名

5. 連携施設（7施設）

岩手県立久慈病院、岩手県立中部病院、岩手県立磐井病院、岩手県立大船渡病院、
盛岡赤十字病院、岩手県立中央病院、八戸市立市民病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

本専門研修プログラムは、各専攻医のみなさんの希望を考慮し、個々の基本モジュールの内容を吟味した上で、基幹施設・連携施設のいずれの施設からの開始に対しても対応できるような研修コースです。

本専門研修プログラムによる救急科専門医取得後には、サブスペシャリティ領域である「集中治療医学領域専門研修プログラム」に進んだり、救急科関連領域の医療技術向上および専門医取得を目指す臨床研修や、リサーチマインドの醸成および医学博士号取得を目指す研究活動を選択したりすることが可能です。また、本専門研修プログラム管理委員会は、基幹施設である岩手医科大学附属病院の臨床研修を行う医師卒後臨床研修センターと協力し、大学卒業後2年以内の臨床研修医の希望に応じて、将来、救急科を目指すための救急医療に重点を置いた臨床研修プログラム作成にもかかわっています。

【研修施設群ローテーション研修の実例】

7. 研修モデル（各年次のローテート例）

ER、ICU、病院前救護・災害医療等は、年次に拘らず弾力的に研修します。必須項目を中心に、知識・技能における年次毎のコンピテンシーの到達目標（例 A：指導医を手伝える、B：チームの一員として行動できる、C：チームを率いることが出来る）を定めています。

研修施設群の中で研修基幹施設および研修連携施設は、どのような組合せと順番でローテーションしても、最終的には指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分に配慮いたします。研修の順序、期間等については、専攻医の皆さんを中心に考え、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、研修基幹施設の研修プログラム管理委員会が見直して、必要があれば修正します。

	1年目	2年目	3年目	
			上期	下期
岩手医科大学 1	A	A	A	
岩手医科大学 2	B	B		B
岩手医科大学 3	C	C		
岩手医科大学 4	D	D		
岩手医科大学 5	E	E		
岩手医科大学 6	F		F	
県立久慈病院			E	
県立磐井病院				E
県立中部病院			C	C
盛岡赤十字病院			B	
県立大船渡病院				A
県立中央病院			D	D
八戸市立市民病院		F		



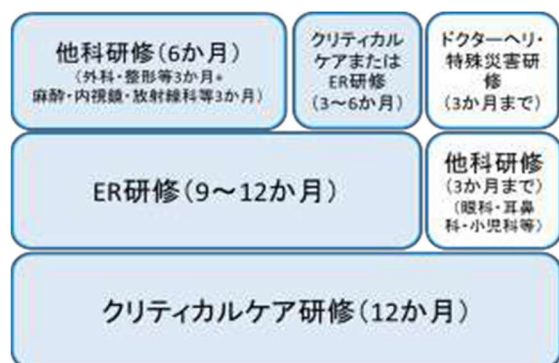
7. 研修内容・方法

研修プログラムの基本構成モジュール 基本モジュールごとの研修期間は、重症救急症例の病院前診療・初期診療・集中治療（クリティカルケア）診療部門 12 か月、ER 診療部門 12 か月に加えて、臨床研修における研修領域、あるいは希望領域に応じて外科・整形外科・脳外科のいずれかを 3 か月、麻酔科・循環器内科・小児科・放射線科のいずれかを 3 か月の合計 6 か月の他科研修、クリティカルケア診療部門（希望に応じてドクターヘリ研修・特殊災害医療対応施設研修（3 か月まで）を含む）または ER 診療部門（希望に応じて眼科・耳鼻科・小児科等の他科研修（3 か月まで）を含む）を合計 6 か月としています。

総括すると下記 4 つのモジュールが研修プログラムの基本になります。

- ① クリティカルケア（基幹研修施設 6 か月以上を含む）12 か月
- ② ER 研修 12 か月
- ③ 臨床研修経験と専門医取得以降の修練希望領域に基づいた他科研修 6 か月
- ④ クリティカルケアまたは ER 研修 6 か月（オプションとしてドクターヘリ・特殊災害研修最大 3 か月まで、眼科・耳鼻科・小児科等の他科研修最大 3 か月までを含む）

【プログラムの概要】



9. サブスペシャリティ領域との連続性

- (1) サブスペシャリティ領域として予定されている、集中治療領域の専門研修について、岩手医科大学附属病院における専門研修の中のクリティカルケア・重症患者に対する診療において、集中治療領域の専門研修で経験すべき症例や手技、処置の一部を修得していただき、救急科専門医取得後の集中治療領域研修で活かしていただけます。
- (2) 集中治療領域専門研修施設を兼ねる岩手医科大学附属病院では、救急科専門医から集中治療専門医への連続的な育成を支援します（救急科専門医 9 名、指導医 3 名、集中治療専門医 3 名在籍）。
- (3) 今後、サブスペシャリティ領域として検討される熱傷専門医、外傷専門医等の専門研修にも連続性を配慮していきます。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 平賀 暁子（救急・災害医学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail ahiraga@iwate-med.ac.jp

【臨床検査科】

1. プログラム名：岩手医科大学臨床検査専門研修プログラム
(定員 1名／年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：仲村 究
(臨床検査医学・感染症学講座教授)

3. 研修年限：3年間

4. 当院指導医数 1 名：藤原 亨
(臨床検査医学・感染症学講座准教授)

5. 連携施設：なし

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手医科大学臨床検査専門研修プログラム（以下、本研修プログラム）では、臨床検査医学総論、一般臨床検査学・臨床化学、臨床血液学、臨床微生物学、臨床免疫学・輸血学、遺伝子関連検査学、臨床生理学の基本7科目の研修を行います。基幹施設である岩手医科大学附属病院で研修を行います。

本研修プログラムでの研修の修了認定がされたら、専門医認定試験の受験資格が与えられます。この試験に合格すると、日本専門医機構の認定する19基本領域の一つである臨床検査専門医となります。臨床検査専門医には、さらに経験を積み大規模中規模施設の臨床検査部門を管理・運営すること、指導医となって臨床検査専門医を育成すること、教育研究機関において臨床検査医学の教育研究を担うことが期待されます。

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

臨床検査の基本科目とそのおおまかな研修期間は以下の通りです。原則として基本検査科目ごとに独立し集中して研修し、ローテーションすることになります。その順序は原則自由ですが、超音波診断医としての業務が想定されることが多いため、臨床生理学の研修を優先させることを奨励しています。

(各研修内容の研修内容と期間の例)

研修内容	研修期間
臨床検査医学総論	2～4か月
一般臨床検査学・臨床化学	4～6か月
臨床血液学	4～7か月
臨床微生物学	4～7か月
臨床免疫学・輸血学	2～4か月
遺伝子関連検査学	1～2か月
臨床生理学	2～6か月

各年の習熟目標としては、検査報告書の作成を例にすると、1年目は指導医の点検を必要とするレベルから、2・3年目には指導医の点検を必要としないレベルを目指します。RCPCは全期間を通して行います。また、研究などの学術的活動も1年目終了後に随時行うことができます。

8. 研修内容・方法

- ・臨床検査技師の助力のもとに、各種検査を実施（経験）します。
- ・病院検査部門で、指導医の指導のもとで各種検査の結果を判定し、報告書発行が業務となっている場合は報告書を作成します。
- ・病院検査部門で指導医の指導のもとで各種コンサルテーションに応え、記録を作成します。
- ・検査部門または臨床科のカンファレンスに参加して学習します。
- ・指導医と上級臨床検査技師による講義により、検査に関連する知識を得ていきます。
- ・臨床検査法提要（金原出版）、標準臨床検査医学（医学書院）、異常値の出るメカニズム（医学書院）などの教材や施設内教材を用い、自己学習により学習を進めます。また、各種セミナーも積極的に受講していただきます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

臨床検査専門医のサブスペシャリティ領域は、現時点では決定されておりませんが、臨床検査科は、岩手医科大学附属病院においては臨床検査・感染症科として業務を行っており、プログラム責任者との相談の下、感染症専門医を目指すことが可能です。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 藤原 亨（臨床検査医学・感染症学講座）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（内線 6331）
- ・E-Mail fujiwara@iwate-med.ac.jp

【病理診断科】

1. プログラム名：イーハトーヴ病理専門研修プログラム（岩手）
（定員 2名／年）
2. 専門研修プログラム統括責任者：柳川 直樹（病理診断学講座教授）
3. 研修年限：3年間
4. 当院指導医数 6 名

5. 連携施設（14 施設）

岩手県立胆沢病院、岩手県立磐井病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立釜石病院、岩手県立久慈病院、岩手県立千厩病院、岩手県立中央病院、岩手県立中部病院、岩手県立二戸病院、岩手県立宮古病院、奥州市総合水沢病院、盛岡赤十字病院、八戸赤十字病院、がん研究会有明病院

6. 研修プログラムの特徴・概要

イーハトーヴ病理専門研修プログラム（岩手）（以下、本プログラム）では、基幹型施設である岩手医科大学附属病院病理診断科と、複数の専門研修連携施設とで3年間の研修を行い、病理専門医資格の取得を目指します。専攻医は専門医とともに地域医療に関わることで、岩手県全てを研修のフィールドとすることができ、豊富な内容の症例を十分に経験することが可能です。また、病理専門医は病理学の総論的知識とともに各領域における専門的知識が必要ですが、本プログラムには各領域のスペシャリストが幅広く揃っており、その分野の最先端の病理診断を学ぶことができます。カンファランスなど各診療科と討論する機会も多く、病理医として成長していくための環境が整っています。

本プログラムでは年間 40 例程度の剖検数があり、組織診断も 34,000 件程度あるため、病理専門医受験に必要な症例数は十分経験することが可能です。また、病理医不在の病院への出張診断（補助）、出張解剖（補助）、迅速診断（テレパソロジーを含む）、標本運搬による診断業務等の経験を積む機会を用意しています。



7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

研修モデルについて、次の通り例示します。

年次	研修場所	研修内容
1	岩手医科大学 附属病院	剖検（CPC含む）と基本的な病理診断と細胞診、関連法律や医療安全を研修する。大学院の進学が可能である（以後随時）
2	連携施設	剖検（CPC含む）と、やや専門的な病理診断および基本的な細胞診を主な目的とする。この年次までに剖検講習会を受講する。可能であれば死体解剖資格も取得する。
3	岩手医科大学 附属病院 （必要に応じ連携 施設）	剖検（CPC含む）と専門的な病理診断および専門的な細胞診を主な目的とする。この年次までに細胞診講習会、分子病理講習会、医療倫理講習会、医療安全講習会、医療関連感染症講習会など、専門医試験受験資格として必要な講習会を受講する。

上記の例のほかに、連携施設での研修を中心とするパターンや、大学院生となり基幹施設を中心に研修をしていくパターンなど、様々なパターンで研修を行うことが可能です。

8. 研修内容・方法

3年間を通じて、業務先の病理専門研修指導医による指導の下で病理組織診断の研修を行います。基本的に診断が容易な症例や、症例数の多い疾患を1年次に研修し、2年次以降は希少例や難解症例を交えて研修をします。2年次以降は各施設の指導医の得意分野を定期的に（1回/週など）研修する機会もあります。

いずれの施設においても、研修中は当該施設病理診断科・病理部の業務当番表に組み込まれます。当番には生検診断、手術材料診断、術中迅速診断、手術材料切り出し、剖検、細胞診などがあり、それぞれの研修内容が規定されています。各当番の回数は専攻医の習熟度や状況に合わせて調節され、無理なく研修を積むことが可能です。

なお、各施設においても各診療科と月数回のカンファレンスが組まれており、担当症例は専攻医が発表・討論することにより、病態と診断過程を深く理解し、診断から治療にいたる計画作成の理論を学ぶことができます。

9. サブスペシャリティ領域との連続性 検討中

10. 研修に関する問い合わせ先

・担当者 柳川 直樹（病理診断学講座）
 ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
 ・E-Mail nyanagaw@iwate-med.ac.jp

【リハビリテーション科】

1. プログラム名：岩手県リハビリテーション科研修プログラム

(定員 3名/年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：西村 行秀

(リハビリテーション医学講座教授)

3. 研修年限：3年間

4. 当院指導医数 3 名



5. 連携施設（5施設）

いわてリハビリテーションセンター（回復期病棟あり）、栃内第二病院（回復期病棟あり）、岩手県立療育センター、東八幡平病院（回復期病棟あり）、南昌病院（回復期病棟あり）

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手県リハビリテーション科研修プログラムは、地方の立地を活かし、多くの症例の経験ができ、専攻医の皆さんの多様な希望にこたえられるプログラムを提供します。岩手県は人口132万人のいわゆる地方都市です。大都市と比較し、患者数ではかきませんが、以下の点で有利であり研修を勧めます。岩手医科大学リハビリテーション科が、地域の5つの連携施設と密に連絡を取りあい、研修医の希望を取り入れながら研修を進めていきます。岩手県リハビリテーション科専門PGのメリットは、以下の通りです。

- 1) ほとんどすべての難治症例が、岩手医科大学附属病院に搬送される。したがって、基幹病院である岩手医科大学附属病院で研修することは、多くの難治症例を経験することができる。研修医数も少ないので、懇切丁寧な指導が期待できる。
- 2) 大都市の病院で研修すると、研修する医師が多いため、一人あたりの研修医が受け持たせてもらえる患者の数や、やらせてもらえる検査などが格段に少ない。
- 3) 大都市の病院では専門分野は細分化する傾向があり、そこで専門に研修した医者は、その分野以外がわからない、という矛盾した状況が生まれる可能性がある。
- 4) 地方都市ならではの医局内にぬくもりがあり、人間関係でストレスを感じることはない。
- 5) 他の大学出身者に対しても優しく対応し、差別しない。

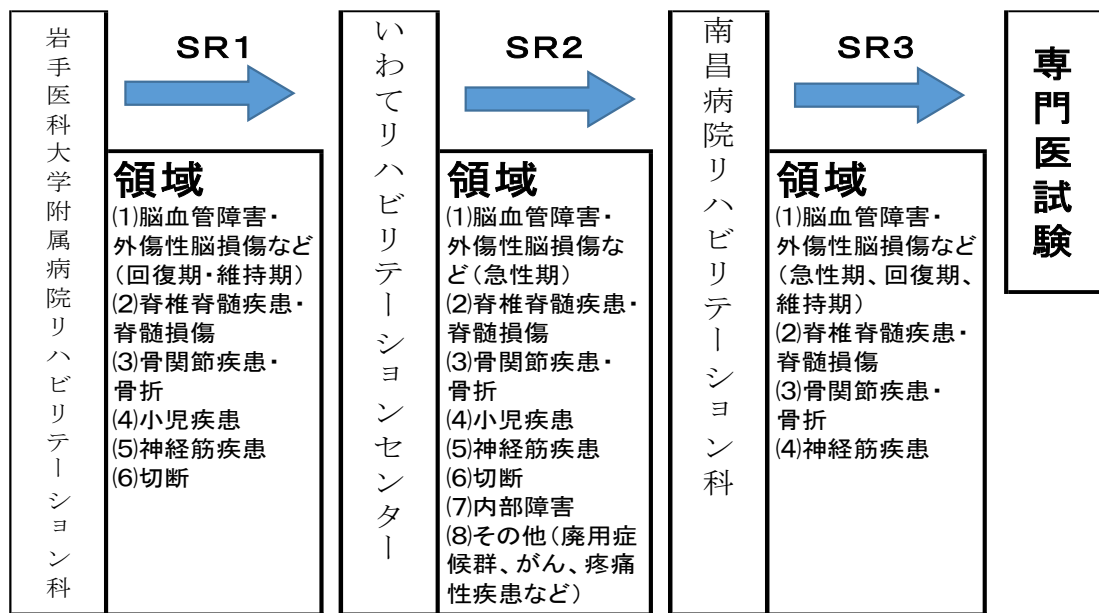
7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

SR1（専門研修1年目）は基幹施設、SR2（専門研修2年目）、SR3（専門研修3年目）は連携施設での研修です。3施設は大学病院、一般病院、リハビリテーション専門病院の中から選択され、症例等で偏りの無いように、専攻医の希望を考慮して決められます。

【プログラムローテーション例】

1年目	2年目	3年目
岩手医科大学 附属病院	いわてリハビリテーションセンター	希望の連携施設
岩手医科大学 附属病院	希望の連携施設 (回復期リハビリテーション病棟)	いわてリハビリテーションセンター
岩手医科大学 附属病院	いわてリハビリテーションセンター	岩手医科大学附属病院

【岩手県リハビリテーション科研修 PG のコース例】



8. 研修内容・方法

本研修 PG では、岩手医科大学附属病院を基幹施設とし、地域の連携施設とともに病院施設群を構成しています。専攻医は、これらの施設群をローテートすることにより、多彩で偏りのない充実した研修を行うことが可能となります。これは、専攻医が専門医取得に必要な経験を積むことに大変有効です。

リハビリテーションの分野は、大まかに8つの領域に分けられますが、他の診療科の多くにまたがる疾患が多く、さらに障害像も多様です。急性期から回復期、維持期（生活期）を通じて、1つの施設で症例を経験することは困難です。さらに、行政や地域医療・福祉施設と連携し、地域で生活する障害者を診ることにより、リハビリテーションの本質も見えてきます。このため、地域の連携病院では、多彩な症例を多数経験することで医師としての基本的な力を獲得します。

また、医師としての基礎となる課題探索能力や、課題解決能力は一つ一つの症例について深く考え、広く論文収集を行い、症例報告や論文としてまとめることで身につけていきます。このことは臨床研究のプロセスに触れることで養われます。このような理由から、施設群で研修を行うことが非常に大切です。岩手県リハビリテーション科専門研修 PG 内の、どの研修病院を選んでも、指導内容や経験症例数に不公平が無いように十分に配慮します。

施設群における研修の順序や期間等については、専攻医を中心に考え、個々の専攻医の希望と研修進捗状況、各病院の状況、地域の医療体制を勘案して、岩手県リハビリテーション科専門研修 PG 管理委員会が決定します。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

リハビリテーション科専門医を取得した医師は、リハビリテーション科専攻医としての研修期間以後に、Subspecialty 領域の専門医のいずれかを取得できる可能性があります。リハビリテーション領域において Subspecialty 領域である小児神経専門医、感染症専門医など（他は未確定）との連続性をもたせる予定です。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・担当者 西村 行秀（リハビリテーション医学科）
- ・電話番号 019 - 613 - 7111（附属病院）
- ・E-Mail ynishi@iwate-med.ac.jp

【総合診療】

1. プログラム名：いわてイーハトーヴ総合診療専門研修プログラム
(定員 6名/年)

2. 専門研修プログラム統括責任者：下沖 収
(総合診療医学講座教授)

3. 研修年限：3～4年間

4. 当院指導医数 5 名

5. 連携施設 (37 施設)

基幹：岩手医科大学附属内丸メディカルセンター

連携：岩手医科大学附属病院、岩手県立中央病院、岩手県立中部病院、岩手県立胆沢病院、岩手県立磐井病院、岩手県立久慈病院、岩手県立宮古病院、岩手県立大船渡病院、岩手県立二戸病院、盛岡赤十字病院、盛岡市立病院、北上済生会病院、岩手県立釜石病院、岩手県立東和病院、岩手県立遠野病院、岩手県立南光病院、岩手県立大東病院、岩手県立山田病院、岩手県立大槌病院、岩手県立軽米病院、岩手県立高田病院、岩手県立千厩病院、岩手県立一戸病院、岩手県立江刺病院、一関市国保藤沢病院、町立西和賀さわうち病院、葛巻町国保葛巻病院、洋野町国保種市病院、奥州市国保まごころ病院、八幡平市立病院、済生会岩泉病院、奥州病院、八戸市民病院、エールクリニック八幡平、もりおか往診ホームケアクリニック、盛岡医療生協川久保病院、盛岡医療生協さわやかクリニック

6. 研修プログラムの特徴・概要

岩手では、医療機関の施設母体の垣根を超えて全人的医療を提供し、地域を守るための「良医」を育てるためのネットワークが構築されています。このネットワークの強みを、総合診療医の育成においても十分に発揮させるべく、総合診療医学分野が教育面やキャリア形成でのサポート・ハブ・調整機能の役割を担い、地域医療・総合診療に関わる岩手の主要な医療機関の総力を結集したプログラムです。「オール岩手」で専攻医の成長を支えることを目指し、新しいプログラムとして 2022 年度から開始しました。

☆ ミッション (使命)

全人的医療を行い地域全体の健康を守る「良医」を育成し、岩手ひいては日本の地域社会に貢献する。

☆ ヴィジョン (理想像)

- ・患者さんを、背景を持った 1 人の人間として総合的にみる
- ・地域をまるごとみる
- ・地域の中で、患者さん・医療者・行政や福祉など他の職種・地域社会それぞれを支えてつなぐ「かけはし」となる

これらを、誇りを持って実践する総合診療医を、継続的に育成する。

☆ バリュー (価値基準)

- ・専攻医ファースト：専攻医の内発的動機を最大限尊重し、専攻医のニーズに叶った専門研修を

サポートする

- ・ オール岩手：関連する施設や関係機関と密に協働し、専攻医のキャリア形成、ワークライフバランスを具体的にサポートする
- ・ 総合診療専門医の取得に責任を持ち、サブスペシャリティ習得を最大限サポートする

7. 研修モデル（各年次のローテーション例）

3年コース（岩手医大で臨床研修の後に本プログラムで研修する場合）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1年目	施設名	岩手県立中央病院 (or 中部病院、胆沢病院、磐井病院)											
	領域	総合診療Ⅱ											
2年目	施設名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	領域	内科											
3年目		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
	施設名	岩手県立中央病院 (or 中部病院、胆沢病院、磐井病院)						藤沢病院、さわうち病院、東和病院など					
	領域	小児科			救急科			総合診療Ⅰ					

※ 1～2日/月 内丸MCでの外来研修+レジデントデイ＝振り返り・課題抽出を通年で継続します。

※ 上記はあくまで一例であり、プログラムの修了要件を満たすことを前提に、専攻医のニーズにあわせて個々に対応します。希望する研修科をオプションで追加し、4年で修了することも可能です。

8. 研修内容・方法

総合診療Ⅱ＝急性期基幹病院の総合診療科に所属して研修します。総合診療Ⅰ＝診療所・地域病院で外来・在宅医療・地域包括ケア・予防医療を中心に研修します。総合診療Ⅰ、Ⅱそれぞれ6ヶ月以上、合計18ヶ月以上の研修期間が必要です。内科と小児科は、臨床研修の基幹施設と同じ施設で研修します。内科6ヶ月以上です（総合診療Ⅱが内科指導可能なら、内科としての研修として扱うことも可能です）。小児科は3ヶ月以上、救急は3ヶ月以上必要です。実践的・主体的に診療を担いながら、月1回の振り返り「レジデントデイ」をWeb Meetingも利用して継続して研修をサポートし、課題抽出・目標設定を繰り返しながら、4年間の研修を行います。

9. サブスペシャリティ領域との連続性

日本プライマリ・ケア連合学会の「新・家庭医専門医」との並行研修が可能です。他にも「病院総合診療科専門医」「在宅・緩和など他の専門医」などのサブスペシャリティについて、専門医機構と関連学会が準備中です。

10. 研修に関する問い合わせ先

- ・ 担当者 下沖 収（総合診療医学講座）
- ・ 電話番号 019 - 613 - 6111（内丸メディカルセンター）
- ・ E-Mail soushin@iwate-med.ac.jp

【募集及び処遇等について】

1. 募集について

<応募資格（いずれかを満たす者）>

- ・2026年3月末日に、2年間の臨床研修を修了予定の者
- ・2026年3月以前に臨床研修を修了した者で、新専門医制度に対応した当院の各専門研修プログラムでの研修を希望する者 等

<採用時期>

（2026年度採用）2026年4月1日（以降）

（2025年度採用）随時

<研修期間>

3年から5年（研修プログラムによって異なります。各プログラム概要をご参照ください）

<応募から採用まで> ※

新採用希望者は、日本専門医機構の「専攻医登録システム」から登録を行います（2026年度採用希望者分は、2025年10月頃より開始予定）。

病院見学や説明会等は、同登録期間までに各科へお問い合わせください。

「専攻医登録システム」への登録と併せて、当院へ所定の申請書類（申込書、履歴書等）を提出していただきます。

※ 日本専門医機構の対応状況により、変更となる場合がございます。

2. 処遇について

身 分	専門研修医（常勤職員） ※以下「その他」参照
給 与	月額 280,000 円（基本給 200,000 円、研修調整手当 80,000 円）
宿日直手当	あり
特別診療手当	時間外の診療について、特別診療手当を支給する。
年金・健康保険	日本私立学校振興・共済事業団に加入
医師賠償責任保険	病院として適用があり、個人としては医師会等に任意加入
その他の社会保険	労働者災害保険および雇用保険に加入
勤務時間	8時30分から17時まで（月曜から金曜まで） 8時30分から12時30分まで（第1・第4土曜日）
休 暇	年次有給休暇、年末休暇、リフレッシュ休暇等 大学規程による
健康診断	職員に準じて年2回実施
宿 舎	あり（2021年3月完成、30室）
院内保育施設	あり（附属病院、内丸メディカルセンター）
その他	岩手医科大学では「社会人大学院制度」があり、研修と研究の並行が可能な領域もあります。また、既に専門医資格を有しており、サブスペシャリティや別領域の専門研修を希望する場合は「任期付助教」任用が可能な場合があります。詳細は、研修希望科または医学部教務課にお問合せください。 適切な範囲で外勤（診療応援）を実施する場合があります。

【附属病院までのアクセス】

（所在地）

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目1番1号

電話番号 019-613-7111（病院代表）

ホームページ <https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/yahaba/>

病院長 森野 禎浩



【内丸メディカルセンター】



【岩手医科大学附属病院】



岩手医科大学附属病院 専門研修プログラム概要 ～2026 年度版～

2025 年 7 月 印刷

岩手医科大学附属病院 医師卒後臨床研修センター

〒028-3695 岩手県紫波郡矢巾町医大通二丁目 1 番 1 号

E-Mail : resident@j.iwate-med.ac.jp

ホームページ : [https:// www.hosp.iwate-med.ac.jp/resident/](https://www.hosp.iwate-med.ac.jp/resident/)

(トップページ)



(専門研修)

